

コガネヒメグモのオス間闘争

池田 博明*

The Male Combat of *Chrysso venusta*
Hiroyoshi Ikeda*

クモのオスは繁殖期にメスをめぐって他のオスと争う。筆者は性選択に関連して、オス間闘争やメスの交尾回数、オスのガード等の行動に興味を持っている。いまだ予備調査の域を出ないが、コガネヒメグモのオス間闘争を確認した。不規則網を持つヒメグモ類のオスの威嚇誇示行動の記録は少ないので報告する。

なお、調査にあたって便宜を図って下さった吉田嗣郎・伊藤浩見の両氏、有益な助言をして下さった新海明氏に感謝する。

1. 調査地および調査日

調査は静岡県駿東郡小山町須走（標高500m）で、1989年7月18日の夜に行った。行動観察は肉眼で行い、ノートに記録した。

2. オスの求愛行動

21時55分、メス（成体）の網のへりに来ているオス（成体）を発見、観察すると、オスは第1脚でメスの網糸をはじいた。はじき方はツンツンとつまびくようなもの（plucking）ではなく、大きく外側から回しながら糸に繰り返し触れるものであった（tugging）。これはオス間威嚇誇示で最初に表れる行動と共通である。ときどき第2脚も使用する。続いて、オスがメスに接近するが、メスの第1脚で攻撃され、との位置まで後退する。すると今度はメスが接近し、オスと第1脚を接触するが、それ以上進展せず、メスは網中央へ戻る。そこでメスは餌を食べ始めた。メスは先ほどからこの餌を捕食中だったらしい。オスは網のへりで静止。この時点では22時05分。

3. オス間闘争の結果

(1) 第1例

上記の求愛を観察した雌雄の同居している網に、他の所を徘徊していたオス（成体）を導入したところ、オス同士が22時14分から22時21分まで約7分間闘争して、オスが入れ替わった。これらの闘争は葉下のメスの網内で起こった。

この時、導入したオス（侵略者；オスAとする）は先住オス（先住者）に近づき、第1脚を大

* 神奈川県立青少年センター

* Kanagawa Prefectural Youth Center

きく外側から回して先住者の第1脚を何回も打つ。先住者も第1脚で打ち返す。いったん先住者は網の縁に追い出されるが、そこで留まる。侵入者は先住者の方に向き直り、再び攻撃する。両者は組み打ちになることなく、繰り返し、糸を第1脚で引き合ったり、第1脚を触れ合ったりする。次第に先住者はメスの網の周辺へ、外へと離れていく。

メスの網を乗っ取ったオスはメスの近くにいるが、すぐにはメスに求愛しないし、メスも特別な反応を見せないでいた。この後、観察を中断して別の所で(2)の実験を行った。

なお、このオスAは23時00分にはメスに求愛していたが、メスは反応しなかった。

(2) 第2例

22時29分、メスの網から追い出されてしまったオスを6~7m離れた別の雌雄(ともに成体)の組の網に導入した。この導入オスは22時33分から48分まで約15分間闘争した。

導入直後は導入オスは網糸に静止していたが、22時33分から先住者に接近し始め、3分間(22時36分まで)は前例同様、第1脚を打ち合わせて闘った。侵略者がメスに近づくが、先住者がやや頭胸部を上げ、第1脚だけでなく、次第に第2・第3脚も打ち合せるようになる。22時44分、双方が上体を上げ、立ち上がって第4脚以外の脚を打ち合わせるようになる。そしてかみつき合った。

両者はかみあつたまま、組み打ちになる。両者は盛んに脚を動かしている。この段階で、どちらが先住者でどちらが侵略者だか分からなくなってしまった。

22時48分、団子状になった両者が離れる。一方が葉下の下方へ移動する。双方とも、かみあいで傷害を受けた様子はない。

葉下面の中央のメスをはさんで網の上方に勝者が、下方に敗者が位置する。約20分後、23時06分に敗者は糸を引いて下方へ下がるが、23時08分、再び元の所へ上ってくる。敗者(オスCとする)はまるで「周辺オス」として次の機会を狙っているように見える。

23時10分、2ヶ所の雌雄を採集した。

4. 考 察

コガネヒメグモのオス間威嚇誇示行動はメスの網上での

- (1) 接近
- (2) 第1脚による糸の引きあい
- (3) 第1脚による打ち合い
- (4) 第2脚・第3脚による打ち合い
- (5) 組み打ち
- (6) かみ合い
- (7) 離れ

と進行したが、このような行動の区分が適切であるかどうかは観察例を増やして検討を要するところである。それぞれの段階の合間に接近行動があり、両者は次第に近づく。

第1例では第1脚による打ち合いで勝負は決着した。第2例では第1脚による打ち合いの後、いったん離れて勝負が決着したかのように見えたが、さらに接近からやり直して闘争が進行した。こ

のような行動の違いはオス間の闘争力の差によることが考えられる。一般に闘争力の差が少ないほど闘争は長引き、発展する。また闘争力はサイズに相関することが考えられる。

そこで闘争に関わった3個体のオスのサイズを測定したところ、次の様な結果を得た（単位はmm）。

	第1例勝者オスA	第2例勝者オスB	第2例敗者オスC
背甲長	2.08	2.21	2.00
背甲幅	1.53	1.68	1.53

両者のサイズ差が小さい方が闘争時間が長引くと予想したのだが、必ずしもそのようにはなっていなかった。つまりA-B間、またはA-C間（第1例）よりも、B-C間（第2例）のサイズ差が大きいのに闘争時間が長い。

また、第1例の闘争がA-C間で起こったならば、やや大きいAが勝ったことになるが、A-B間で起こったならば、Bよりサイズの小さいAが勝ったことになる。この点については次のような考察が可能である。

第1例の闘争がA-B間だとすればBは最初のメスに執着せず（つまりサイズが大きく先住者だったのに7分間の闘争でオスAにメスを取られたこと）、第2例のメスに執着した。なんらかの理由で（例えば第1例のメスは既交尾メスだった等）2番目のメスの方がこの時点で価値が高かったのだろう。

5. 調査方法と今後の調査について

このような行動記録にはVTRを使用するか、テープレコーダーを使用して、個体識別を完全にする必要がある。途中で目を離すとどちらが侵略者か分からなくなってしまう。

また処女メスに対するオスの求愛行動をきちんと記録しておく必要がある。既交尾メスは2番目に求愛するオスに対してどのような行動を取るのかも分かっていない。

コガネヒメグモは吐き戻し給餌をする種であるが、このような子の保護行動とオス（父親）がどのような関係を持っているのかは大変に興味ある問題であろう。

千葉県で採れたサソリモドキ

小野展嗣

サソリモドキ目 (*Thelyphonida*) の動物は、我国では九州南部から琉球諸島にかけて 2 種が分布している。しかし最近、既知産地よりはるかに離れた千葉県において 1 頭が採集された。この標本は筆者が勤める博物館に同定依頼のために持ち込まれたものである。データは次の通りである。

千葉県安房郡白浜町青木、8-VI-1990、中村行雄氏採集、1♀。

人家から出てきたもので、外国から人為的に移入された可能性もある。また、自然に生息している可能性もないとは言えない。現在、種の同定など詳しいことは研究中であるが、とりあえず報告しておく。

ムネグロサラグモの求愛・交尾

池田博明

1989年8月13日、21時12分、静岡県駿東郡小山町須走のカラマツ林の枝先のムネグロサラグモの網に雌雄がいて、ちょうどオスが求愛しているところだった。そのまま観察を続けていると、交尾したので、その様子を報告する。

ドーム網の下面で、雌雄を見つけた時、オスは第1脚で、メスと打ち合い (beating) をしていた。メスが交尾を受け入れないと、オスは腹部をこきざみに上下に振動させながら (abdomen vibrating), 1脚で網面をたたき (drumming), ぐるぐる体を回転させる (circling)。回転の中心は糸いぼより少し後端である。

その後、5分以上、雌雄は1cmくらい離れたまま動かなかった。オスはメスに体の側面を見せるような位置でじっとしている。

21時17分50秒、オスが求愛し始めた。腹部を激しく上下させながら、1脚でメスの1脚を打つ。メスも打ち返す。オスはメスの前で先ほどと同様、1脚で網を叩き、腹部を振動させながら、ぐるぐる回る。やがて再び動かなくなる。

21時35分10秒、オスが1脚を上下させながら求愛すると、メスは1脚で打撃した (sparring) 後、オスを1脚で抱き込むような動作 (pulling) をし、オスは前進して O-V D 型の交尾体勢になる。(opposite 対向 - ventral / dorsal 腹背位。雌雄は向き合い、メスの体の腹面とオスの体の背面とが相対している交尾体位。吉倉 1987 による)。21秒間継続する。

いったん離れて、数分後オスは求愛し、メスが受け入れて、21時39分50秒から21時45分30秒まで交尾体勢をとる。オスはメスの外雌器の上でときどき触肢を動かしている (knocking and stroking)。分離後、メスは1脚で間欠的に網面を叩く (beating)。メスから5mmほど離れたところでオスは静止。

21時59分、オスは迷網の中心に移動し、メスはそのままシート網の下へ静止している。

— DRAGLINE —

ムネグロサラグモの求愛・交尾については中平（1975）の記録があるが、今回の観察ではメスの方に1脚で網をたたく以外に積極的な行動が見られない点で、やや異なっていた。求愛を拒否されたオスがメスの眼前でぐるぐる回るのが特徴的であった。

採集して標本を検したところ、確かにムネグロサラグモ *Linyphia nigripectoris* であった。

ガス瞬間湯沸かし器の不完全燃焼を

引き起こすクモの糸

山川 守

朝、いつもの様に湯沸かし器のスイッチを押し、お湯を出したところ、突然、炎がオレンジ色になり、黒煙が立ち上った。

ガスの不完全燃焼の状態である。

購入してまだ数ヶ月、欠陥商品ではないかと早速メーカーのサービスセンターに連絡をした。

サービスマンが到着、すぐカバーを外し内部を点検、やはりこれだと取り出したのが綿ぼこりの様なもの。

「新品なのでほこりなどまだ付かないはず」と言うと「ほこりでは有りません、何だか分かりますか?」とサービスマン。

よくよく見ると何とそれはクモの糸!

フクログモの仲間の白い巣であった。

機械の事は良く分からぬが、場所は燃焼室手前のガスの噴出口付近らしい。

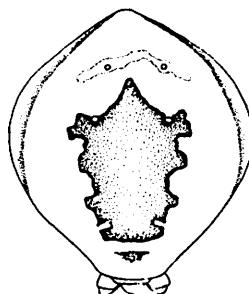
私がクモが好きなので湯沸かし器にまでクモが住みついたと話すと、この時期（5月～6月）はこの様なクレームが多く有り、ガス器具会社でもほとほと困っているとの事。

クモの糸でガス中毒事故が起きない様、祈るばかりである。

斑紋のあるワキグロサツマノミダマシ

谷川 明男

1990年8月30日、三重県、和歌山県、奈良県の県境にある瀬戸内において、背中に斑紋のあるワキグロサツマノミダマシ (*Neoscona mellotteei*) を採集した。体色はふつうのサツマノミダマシと同じあざやかな緑色であるが、その中央に図に示したような暗褐色の斑紋がある。私はこのようなものを今まで見た事がなかったので、たいへんびっくりしたのだが、皆さんいかがであろうか、他にもご覧になった方がいらっしゃるだろうか。



ヤリグモ対オナガグモ

谷川明男

ヤリグモ (*Argyrodes saganus*) とオナガグモ (*Argyrodes cylindrogaster*) とはともにクモを食うクモとして有名であるが、この両者が出会うとどうなるであろうか。その一観察例を報告する。1990年9月23日神奈川県の丹沢湖近くにある世附キャンプ場付近にて、オナガグモを捕食中のヤリグモを発見した。オナガグモは歩脚もろとも頭胸部を糸で巻かれており、腹部後端にヤリグモがかみついている状態であった。どのような顛末でこうなったかは見ていないが、おそらくオナガグモの条網にヤリグモが侵入してきて対決することになったのであろう。とにかくこの一戦ではヤリグモに軍配があがったようである。

キマダラヒラタヒメグモの新産地

熊田憲一

キマダラヒラタヒメグモは、日本で唯一知られているヒラタヒメグモ属のクモで、新潟県尾瀬ヶ原にて1970年7月17日新海明氏が採集した日本新記録以降、どこからも報告されていない種であった。

私は、北海道浜中町霧多布で得られた標本を再検鏡したところ、この種が得られていることが判ったので報告する。

キマダラヒラタヒメグモ *Euryopis flavomaculata* (C. Koch, 1836)

採集個体：1♂

採集者：熊田 憲一

採集地：北海道釧路支庁厚岸郡浜中町霧多布

年月日：1977年7月12日

この種は、霧多布湿原から外れ、茶内方面に少し行った灌木林でのビーキングで採集した種である。

日本新記録として報告した新海栄一氏によると、ヒラタヒメグモとは、その歩き方がヒラタグモに似ているところから命名した、とのことでした。

ツクネグモの交接の観察

新海明

1989年3月25日、千葉県君津市にある東京大学千葉演習林内の猪の川林道でツクネグモ *Phroncidia pilula* の交接を観察した。

黒っぽい体色の小さなツクネグモの♂成体を発見したのは16:20で、葉の上を徘徊していた。暫くすると♀はしおり糸を流し、それを伝い左上方の枯れ枝に移動した。そこにはツクネグモの♀成体がいて、下方へ粘性条網を張っていた。枯れ枝上を徘徊していた♀が♀の所へきた瞬間に♀はじかれるように条網にそって下方へ移動した(16:29)。この様子はあたかも条網にかかった餌

DRAGLINE

を捕りに行くかのようであった。♂はあとに残された不粘性の糸をたどり、♀を追いかけて後方よりその体に接し、ついで互いに向き合って交接した(16:30)。交接のあいだは♂♀共に脚をこぎざみに動かしながら接触しているのが印象的だった。♂のバルブがどのように挿入されていたのかは不明であった。暫く交接をしていた♂♀はいきなりはじかれるように上下に別れた(16:37)。

♀は上方の糸に残り、♂は下方へ垂れ下がった。その後、♀はさらに上方に逃れ、♂はその後を追いかけたが♀の逃げ足がはやく、再び両者が出会うことはなさそうだったので採集した(16:51)。

当日はこの個体以外にも数頭の♀♂を発見しており、清澄山におけるツクネグモの交接期はこの時期と考えられた。

カネコトタテグモとキシノウエトタテグモの混棲地 新 海 明

愛知県を中心とした中部地方でトタテグモ類の研究をされている須賀英文氏によると、中部地方ではカネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (以下、カネコ)とキシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (以下、キシノウエ)は混棲することがないという [*Atypus*, (89):37 (1987)]。

関東地方でも同様な傾向があると思っていたが、1989年1月18日に神奈川県横浜市港北区の丘陵において両種が混棲する場所があったので報告する。

ここは丘陵の南斜面にある崖地だったが、建物の裏側にあたるために日当たりはあまり良くなかった。カネコとキシノウエはこの崖の幅3.5m、高さ1.5mの中に合計192個体いた。内訳はカネコ67個体(12.8個体/m²)、キシノウエ125個体(23.8個体/m²)で、ほぼ1:2の割合であった。両者の住居はモザイク状に入り混じっており、その分布には特に傾向はなかった。

ここは両種の調査には最も適した場所であったが、残念ながら側溝の工事のために取り壊されてしまい、現在はもうみられなくなってしまった。

高橋登氏(私信)によると神奈川県ではカネコとキシノウエの混棲地は他にもみられるとのことである。乱開発がすすむ前にきちんとした分布などの記録を残しておきたいものである。

常念岳の山麓でコケオニグモを発見 谷 川 明 男

1990年8月8日、北アルプス常念岳の山麓、長野県南安曇郡堀金村にある須砂渡渓谷いこいの森のなかの清涼の小道(標高は880m前後)において、コケオニグモ(*Araneus tartaricus*)の雌成体を発見した。

コケオニグモはウメノキゴケなどの地衣類とそっくりな体色をしており、さらにひだのような黒褐色の模様までついているので、地衣のなかにうずくまっているればかなり見つけにくいものと思われる。しかし今回発見した個体は地衣の上にはいなかった。林内の小道をクモの採集をしながら歩

— DRAGLINE —

いていると、大きなクモが下草（高さわずか30cmくらいのイネ科と思われる単子葉類）に登ろうとしているものの、自らの体重で草がたわんでしまい、思い通りにならずにもがいているのに気がついた。何だろうと思ってつかまえてみるとコケオニグモだったのである。

日頃から、樹皮に地衣類がついているのを見ると、コケオニグモが潜んでいるのではないかとまだ見ぬオニグモに思いを馳せて探してきた。この日も、樹皮にコケや地衣類がついている木がたくさんあったので、もしやもしやと探していたのであるが、まさか草の間でのたうちまわっているとは思いもしなかった。できることなら、その保護色を十分に発揮して地衣のなかに潜んでいる姿を見てみたいものである。

緑のオニグモ？発見、田沢湖で

田 副 幸 子

1990年夏、高山植物の観察と、もちろんクモの観察採集を目的として、秋田と岩手の県境にある秋田駒ヶ岳と田沢湖にいきました。8月17日から19日でしたので、少々クモも植物も季節はずれの感がありました。18日田沢湖畔にて何種かのクモを観察しました。その中に腹部は緑色、外雌器はオニグモに酷似、頭胸部の前方中央が突き出た雌のクモがいました。田沢湖畔にはさくらの古木が沢山あり、いづれも樹皮は苔むしています。その一本に少し壊れかかった垂直の円網を見つけ、オニグモの仲間かと思い、網の上部の幹に指でふれたとたん、苔と見えた塊がムクムクと動きだしました。クモの採集が好きでクモに興味を持ったにもかかわらず、このムクムクには、一瞬叫び声をあげそうになりました。しかし、この体色、肩の隆起、これこそコケオニグモと、今度は感動で震える手で採集しました。雄もいればと、かなりの時間をかけて探しましたが遂に見つかりませんでした。手元の文献ではコケオニグモにも該当せず、種名はわからないのですが、今のところ標本棚から時々出してはニンマリしています。

渡瀬線を越えたオオジョロウグモの幼生

谷 川 明 男

1990年7月15日、屋久島の南西部、仲間集落の近くの林内でオオジョロウグモ(*Nephila maculata*)の幼生(体長約10mm)を1頭採集した。

オオジョロウグモは渡瀬線以南(トカラ列島以南)に分布するクモであるが、この幼生はがんばって海を渡ってきたらしい(風に飛ばされたのか、なにかにくついてきたのか、それはわからないが)。このことは、これから屋久島にもオオジョロウグモが生息するようになる前兆なのか、あるいは今回だけの偶然のできごとなのか、たいへん興味のあるところである。それにしても、最近は、神奈川県でスズミグモが発見されるなど、なんとなく南方系のクモが北上しつつあるような雰囲気を感じるのだが、それは考えすぎであろうか。

動物学雑誌に掲載された真正クモ類の文献目録

1巻から60巻まで(1888~1951)

新 海 明

キシノウエトタテグモに関する文献を調べる過程で、日本動物学会の機関誌「動物学雑誌」に多くの真正クモ類に関する論文が掲載されているのを知った。それらの題名をみると大変に興味をそそられるものが多数ある。かつて八木沼先生の書かれた「原色日本蜘蛛類大図鑑」(八木沼, 1960)の初版の文献目録にはこれらの文献が紹介してあった。しかし、1986年に発行された新版(八木沼, 1986)ではなくなってしまった。私自身を含めて現在の若手のクモ研究者たちはこれらの文献の存在すら知らない者が多いのではなかろうか。ここでは、動物学雑誌の文献目録をたよりに真正クモ類に関する論文をとりだして、発行年代順に整理してみた。読者諸氏のお役に立てば幸いである。

本稿をまとめるにあたり、磯野直秀氏には動物学雑誌を紹介し通覧をさせていただいた上に、初期の雑誌の複写までお許し願った(「動物学雑誌」の初期の数巻は国立国会図書館でもコピーサービスをしてくれない!)。ここに厚くお礼申し上げる。

著者名	発行年	題名	巻号	ページ
岸上 錠吉,	1888.	蜘蛛の巣の話.	1(2)	: 40-42.
岩川友太郎,	1888.	蜘蛛の解剖及習性.	1(2)	: 42-46.
岩川友太郎,	1888.	蜘蛛の解剖及習性.	1(3)	: 68-73.
岸上 錠吉,	1889.	ライコサ (Lycosa).	1(5)	: 146.
岸上 錠吉,	1889.	トタテグモ.	1(6)	: 154-159.
岸上 錠吉,	1889.	ライコサ蜘蛛の繭.	1(6)	: 174-175.
岸上 錠吉,	1889.	蜘蛛の眼.	1(8)	: 245-249.
Wagner, M.V.(1889).		クモの血液.	1(8)	: 264.
岸上 錠吉,	1889.	トタテグモ.	1(9)	: 307-308.
吉田 貞雄,	1889.	蜘蛛巣の白線に就いて.	1(11)	: 391.
山本 温,	1889.	蜘蛛の巣上の白線.	1(12)	: 438.
Apstein, C.(1889).		蜘蛛の糸腺.	1(14)	: 521.
い. ま.,	1890.	蜘蛛が巣を張る次第.	2(19)	: 212-216.
い. ま.,	1890.	蜘蛛の巣に就いて.	2(21)	: 317.
岸上 錠吉,	1891.	甲殻類と蜘蛛の頭胸部は相同なるか.	3(29)	: 128.
吉田 貞雄,	1892.	蜘蛛の巣上の白条.	4(48)	: 413.
吉田 貞雄,	1892.	蜘蛛に就いて	4(48)	: 414-416.

斎藤 順,	1893.	蜘蛛の巣.	5(52): 61-62.
名和 靖,	1893.	一種のトタテグモ.	5(56): 241.
吉田 貞雄,	1893.	トタテグモ発見の再報.	5(56): 242.
石川 一男,	1893.	奇麗なる蜘蛛の卵囊.	5(58): 322.
岸上 錠吉,	1894.	クモの腹腔.	6(69): 265.
増田勇次郎,	1894.	蜘蛛に就いて観察.	6(69): 276.
岸上 錠吉,	1894.	クモの巣の発達に就いて.	6(71): 341-342.
丘 浅次郎,	1894.	蜘蛛における単為生殖.	6(74): 460.
岸上 錠吉,	1895.	蜘蛛の巣の張り方変化す.	7(82): 255.
藤田 経信,	1895.	蜘蛛の視感.	7(86): 428.
吉田 貞雄,	1896.	蜘蛛の視覚.	8(98): 480-481.
渡瀬庄三郎,	1907.	日本産蜘蛛の研究.	19(219): 16.
谷津 直秀,	1907.	日本の「クモ」.	19(221): 108.
Montgomery, T.H., & Purcell, W.F. (1909). 蜘蛛類の呼吸器の発生及び起源に就いて.			
			23(270): 209-221.
Montgomery, T.H. (1911). 蜘蛛の光に対する習性.			
			23(272): 344.
Dahl, F.,	(1911).	蜘蛛類の聴毛と其系統的関係.	23(278): 711-712.
Weidman, F.D.,	(1907).	蜘蛛の眼の構造.	24(281): 162-165.
岸田 久吉,	1912.	蜘蛛の単為生殖研究略史.	24(281): 182-183.
Montgomery, T.H., & Taworowski, A., (1909). 蜘蛛の筋績突起の起源に就いて.			
			24(282): 221-225.
McIndoo, N.E., (1911). 蜘蛛類の豎琴形器官と触毛に就いて.			
			24(283): 289-293.
Dahl, F.,	(1912).	蜘蛛の糸に就いて.	24(288): 584-588.
Green, E.E.,	(1912).	蜘蛛の擬態.	24(289): 637-638.
奥村 多忠,	1912.	蜘蛛の糸、紡績器及び其腺に就いて.	24(290): 673-686.
Momolo, I.,	(1912).	二肺蜘蛛類の肺の発生.	25(291): 35-37.
奥村 多忠,	1913.	蜘蛛の毒に就いて.	25(291): 54-57.
Comstock, J.H.	(1912).	The Spider Book.	25(292): 118.
Comstock, J.H.	(1912).	蜘蛛網の進化.	25(295): 284.
Benedykt, F.	(1912).	蜘蛛の胚葉形成に関する研究.	25(297): 378-380.
大野 唯,	1913.	蜘蛛の育児法に就いて.	25(297): 382-384.
筒井 清治,	1914.	クモの土地所有権.	26(308): 336.
Dahl, F.,	(1913).	Vergleichende Physiologie und Morphologie der Spinnentiere.	26(308): 338.
Dahl, F.,	(1914).	Vergleichende Physiologie und Morphologie der Spinnentiere unter besonderer Berücksichtigung der Lebensweise.	26(309): 388.

Barrows,	(1916). 蜘蛛の趨振性.	28(332): 232.
吉田 貞雄,	1916. 千葉県木更津町にてカネグモと称するもの字名, 和名, 分布.	28(333): 280.
山鳥吉五郎,	1917. 女郎蜘蛛の習性に就いて.	29(341): 76-83.
岸田 久吉,	1920. 日本産の蜘蛛化石.	32(382): 261.
岸田 久吉,	1920. トタテグモ科の新属新種ワタセグモに就いて.	32(384): 299-307.
岸田 久吉,	1920. 原的の蜘蛛日本にも産する事.	32(385): 360-363.
岸田 久吉,	1921. トタテグモ類の住居.	33(388): 60-66.
岸田 久吉,	1921. トタテグモ類の住居.	33(390): 109-118.
堀川 安市,	1922. フタホシトゲグモの網.	34(403): 610.
Vogel, H.,	(1921). 蜘蛛の豎琴形器官.	34(404): 688.
Savory, T.H.,	(1922). 原的動物としてのキムラグモ類.	35(413): 134-135.
Holmgren, N.,	(1920). 蜘蛛類における口橋の発生.	35(415): 230-231.
中島 利重,	1923. 台北新公園における蜘蛛.	35(416): 275.
中島 利重,	1923. ネッタイグモと其生殖に就いて.	35(416): 275.
中島 利重,	1923. 間門産トタテグモに就いて.	35(416): 276.
岸田 久吉,	1923. <i>Heptathela</i> , a new Genus of Liphistiid Spiders.	35(417-422): 495.
Elizabeth, N.C.,	(1918). オニグモの食う食物の量.	35(417-422): 505-506.
岸田 久吉,	1924. 内田理学士採集北樺太産蜘蛛目 附沖縄県下から初めて記録せられる ハシリグモ属一種.	36(434): 510-520.
森田 淳一,	1929. 観察雑記(オニグモの雌雀の幼鳥を食う).	41(486): 190-192.
谷津 直秀,	1931. クモ, クモを食う.	43(513): 510.
岸田 久吉,	1933. マメイタイセキグモ日本のFaunaに入る.	45(531): 30.
谷津 直秀,	1934. クモに寄生するハリガネムシ.	46(544): 63.
岸田 久吉,	1934. 興安嶺の蜘蛛.	46(553): 513.
植村 利夫,	1941. 東京産サラグモ科一新種の記載.	53(4): 212-214.
関口 晃一,	1944. 蜘蛛卵の調節能力.	56(8): 10-12.
鈴木 正将,	1949. 蜘蛛類の細胞学的研究.	58(6): 89-90.
鈴木 正将,	1950. クモ類の性決定と核型.	59(2-3): 57-58.
鈴木 正将,	1951. 核型より見たハエトリグモ科・コガネグモ科.	60(1-2): 3-4.

発行年に附した()は原著論文の発行年と思われる。

これらの文献は、国立国会図書館や東京農業大学図書館で閲覧ができる。

なお、八木沼先生が「日本の生物」に書かれた「泰明期の日本のクモ学①～③」（八木沼, 1987; 1988 a, b)には、上記の論文のいくつかが詳しく紹介されている。興味あるかたは一読していただきたい。

引 用 文 献

- 八木沼健夫, 1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑, 187p., 保育社, 大阪.
- _____, 1986. 原色日本クモ類図鑑, 305p., 保育社, 大阪.
- _____, 1987. 泰明期の日本のクモ学① 日本のクモ学のあけぼの. 日本の生物,
1(11) : 17-20.
- _____, 1988a. 泰明期の日本のクモ学② 大正から昭和初期にかけて. 日本の生物,
2(1) : 54-57.
- _____, 1988b. 泰明期の日本のクモ学③ 日本のクモ学を育てた出版物. 日本の生物,
2(2) : 17-20.

福島県南部のクモ類採集記録

熊田憲一*・谷川明男**

Spiders from southern part of Fukushima pref.

Ken-ichi Kumada*・Akio Tanikawa**

筆者らは、1990年6月24日、福島県南部を訪れてクモ類の観察・採集を行なったので、その結果をここに報告する。採集は、ハンドソーティング、スイーピング、ビィーティングによって行なった。採集を行なった地点は、後述の4カ所である。なお、以下に種名を記したもの以外にも何種か種名不明のものが採集されたが、それらについては今後の研究課題としたい。

目録の記述にあたって、科の配列は八木沼(1986)にしたがい、科内での種の配列については学名のアルファベット順とし、Bösenberg et StrandはBös. et Str.と略記した。採集データは、採集地点・性の順に掲げ、採集地点は次に示すa～dの記号で表し、性は雌成体をF、雌幼体をf、雄成体をM、雄幼体をm、性別不明の幼体をyで表した。

a：白河関跡（福島県白河市） C4013-3702

b：白河関跡近くの大木沢付近（福島県白河市） C4012-3701

c：羽鳥湖付近（福島県岩瀬郡天栄村） C4003-3714

d：白河と羽鳥湖の間、真名子付近（福島県岩瀬郡西郷村） C4006-3712

目 錄

Atypidae ジグモ科

- | | | |
|--|----------|--------|
| 1. <i>Atypus karschi</i> Dönnitz | ジグモ | aFy |
| Amaurobiidae ガケジグモ科 | | |
| 2. <i>Amaurobius flavidorsalis</i> Yaginuma | セシジガケジグモ | aF |
| Uloboridae ウズグモ科 | | |
| 3. <i>Miagrammopes orientaris</i> Bös. et Str. | マネキグモ | bM |
| 4. <i>Uloborus sybotides</i> Bös. et Str. | カタハリウズグモ | aF |
| 5. <i>U. yesoensis</i> (Saito) | エゾウズグモ | aFM bF |
| Oonopidae タマゴグモ科 | | |
| 6. <i>Orchestina sanguinea</i> Oi | アカハネグモ | bf |

* 〒221 横浜市神奈川区片倉町199

** 神奈川県立野庭高等学校 〒233 横浜市港南区野庭町1660

Pholcidae ユウレイグモ科

7. <i>Pholcus opilionoides</i> (Schrank)	タイリクユウレイグモ	aFM bF
Theridiidae ヒメグモ科		
8. <i>Achaeareana angulithorax</i> (Böös. et Str.)	ツリガネヒメグモ	aF
9. <i>A. culicivola</i> (Böös. et Str.)	カグヤヒメグモ	aMy cy
10. <i>A. kompirensis</i> (Böös. et Str.)	コンピラヒメグモ	aFM bfm cy
11. <i>A. tepidariorum</i> (C. Koch)	オオヒメグモ	aFMy
12. <i>Anelosimus iwawakiensis</i> Yoshida	イワワキアシブトヒメグモ	bF
13. <i>Argyrodes cylindrogaster</i> (Simon)	オナガグモ	aF
14. <i>A. fur</i> Böös. et Str.	フタオイソウロウグモ	aFM
15. <i>A. saganus</i> (Dön. et Str.)	ヤリグモ	aFM bF
16. <i>Dipoena castrata</i> Böös. et Str.	ボカシミジングモ	bm cfM
17. <i>D. mustelina</i> (Simon)	カニミジングモ	bFM cFM
18. <i>D. mutilata</i> Böös. et Str.	コアカクロミジングモ	aF bFM cFy
19. <i>D. okumae</i> Yoshida	クロミジングモ	bF cF dF
20. <i>D. punctisparsa</i> Yaginum	シモフリミジングモ	cF
21. <i>Enoplognatha japonica</i> Böös. et Str.	ヤマトコノハグモ	aF
22. <i>E. transversifoveata</i> (Böös. et Str.)	カレハヒメグモ	aF
23. <i>Episinus affinis</i> Böös. et Str.	ヒシガタグモ	cF
24. <i>E. mirabilis</i> (Böös. et Str.)	ハラナガヒシガタグモ	cF
25. <i>Stemmops nipponicus</i> Yaginuma	スネグロオチバヒメグモ	aF bF
26. <i>Theridion chikunii</i> Yaginuma	バラギヒメグモ	aF bF
27. <i>T. lyricum</i> Walckenaer	シモフリヒメグモ	aF cF
28. <i>T. pinastri</i> L. Koch	ムナグロヒメグモ	aF
29. <i>T. rapulum</i> Yaginuma	ギボシヒメグモ	cM
30. <i>T. sterninotatum</i> Böös. et Str.	ムナボシヒメグモ	aF bFy
31. <i>T. subadultum</i> Böös. et Str.	コケヒメグモ	aF
32. <i>T. takayense</i> Saito	タカユヒメグモ	cFM dF

Nesticidae ホラヒメグモ科

33. <i>Nesticus brevipes</i> Yaginuma	コホラヒメグモ	aFMM bFM
Linyphiidae サラグモ科		
34. <i>Aprifrontalia mascula</i> (Karsch)	コサラグモ	bFM
35. <i>Asperthorax communis</i> Oi	ザラアカムネグモ	aF dF
36. <i>Bathyphantes tateyamaensis</i> (Oi)	タテヤマテナガグモ	aFM bFM
37. <i>Cresmatoneta nipponensis</i> Saito	アリサラグモ	aF
38. <i>Dicornua naraensis</i> Oi	ナラヌカグモ	cF
39. <i>Doenitzius peniculus</i> Oi	デニッツサラグモ	aF bF

40. <i>Erigonidium graminicora</i> (Sundevall)	クロナンキングモ	aFM bFM cF
41. <i>E. nigritermorum</i> Oi	ハシグロナンキングモ	cFM
42. <i>Floronia bucculenta</i> (Clerck)	ハナサラグモ	ay
43. <i>Linyphia brongersmai</i> (Helsdingen)	チビサラグモ	bF
44. <i>L. clathrata</i> Sundevall	コウシサラグモ	aF
45. <i>L. fusca</i> (Oi)	クスミサラグモ	bF
46. <i>L. japonica</i> (Oi)	ツリサラグモ	aF bF
47. <i>L. limbatinella</i> Böss. et Str.	フタスジサラグモ	ay
48. <i>L. longipedella</i> Böss. et Str.	アシナガサラグモ	cy
49. <i>L. nigripectoides</i> (Oi)	ムネグロサラグモ	aF
50. <i>L. oideadicata</i> (Helsdingen)	ヘリジロサラグモ	aF
51. <i>L. radiata</i> Walckenaer	シロブチサラグモ	aF
52. <i>L. yunohamensis</i> Böss. et Str.	ユノハマサラグモ	aF bFy
53. <i>Meioneta concava</i> Oi	クボミケシグモ	aF
54. <i>Micrargus latitegulatus</i> Oi	ヒロテゴマグモ	bF
55. <i>Ummeliata angulituberis</i> (Oi)	コトガリアカムネグモ	aFM bFM
Mimetidae センショウグモ科		
56. <i>Ero cambridgei</i> Kulczyński	アオグロセンショウグモ	bF
57. <i>E. japonica</i> Böss. et Str.	センショウグモ	aF
Theridiosomatidae カラカラグモ科		
58. <i>Ogulnius pullus</i> Böss. et Str.	ヤマジグモ	bF
59. <i>Theridiosoma epeiroioides</i> Böss. et Str.	カラカラグモ	bFf
Anapidae ヨリメグモ科		
60. <i>Conoculus lyugadinus</i> Komatsu	ヨリメグモ	bFM
Araneidae コガネグモ科		
61. <i>Argiope amoena</i> L. Koch	コガネグモ	ay
62. <i>A. boesenbergi</i> Levi	チュウガタコガネグモ	aF
63. <i>A. bruennichi</i> (Scopoli)	ナガコガネグモ	ay
64. <i>Araneus cornutus</i> Clerck	ナカムラオニグモ	aF
65. <i>A. ishikawai</i> Kishida	イシサワオニグモ	cy
66. <i>A. pseudocentrodes</i> Böss. et Str.	トガリオニグモ	bF
67. <i>A. ventricosus</i> (L. Koch)	オニグモ	aF
68. <i>Chorizopes nipponicus</i> Yaginuma	ヤマトカナエグモ	bFM
69. <i>Cyclosa atrata</i> Böss. et Str.	カラスゴミグモ	ay
70. <i>C. octotuberculata</i> Karsch	ゴミグモ	aF
71. <i>Cyrtarachne inaequalis</i> Thorell	オオトリノフンドマシ	bF
72. <i>Metleucauge kompirensis</i> (Böss. et Str.)	タニマノドヨウグモ	bFfMy

73. <i>M. yunohamensis</i> (Bö's. et Str.)	メガネドヨウグモ	aF bF cF
74. <i>Neoscona adianta</i> (Walckenaer)	ドヨウオニグモ	ay by
75. <i>N. scylloides</i> (Bö's. et Str.)	サツマノミダマシ	ay by
76. <i>N. scylla</i> (Karsch)	ヤマシロオニグモ	af cy
77. <i>Pronous minutus</i> (Saito)	コオニグモモドキ	cFM
78. <i>Zilla sachalinensis</i> (Saito)	カラフトオニグモ	aF bF
Tetragnathidae アシナガグモ科		
79. <i>Dyschiriognatha tenera</i> (Karsch)	ヒメアシナガグモ	cF
80. <i>Leucauge magnifica</i> Yaginuma	オオシロカネグモ	bFM
81. <i>L. subblanda</i> Bö's. et Str.	コシロカネグモ	aFM bFM
82. <i>L. subgemmea</i> Bö's. et Str.	キララシロカネグモ	aFMy bfy
83. <i>Tetragnatha extensa</i> (Linne)	ハラビロアシナガグモ	aF
84. <i>T. maxillosa</i> Thorell	ヤサガタアシナガグモ	aFM bFy
85. <i>T. pinicola</i> L. Koch	ミドリアシナガグモ	cF
86. <i>T. praedonia</i> L. Koch	アシナガグモ	aFm
87. <i>T. shinanoensis</i> Okuma et Chikuni	シナノアシナガグモ	bFM
88. <i>T. yesoensis</i> Saito	エゾアシナガグモ	bF cM
Urocteidae ヒラタグモ科		
89. <i>Uroctea compactilis</i> L. Koch	ヒラタグモ	aF
Agelenidae タナグモ科		
90. <i>Agelena opulenta</i> L. Koch	コクサグモ	ay by
Hahniidae ハタケグモ科		
91. <i>Neoantistea quelpartensis</i> Paik	ヤマハタケグモ	aF
Pisauridae キシダグモ科		
92. <i>Dolomedes raptor</i> Bö's. et Str.	アオグロハシリグモ	a, b 脱皮殻
93. <i>D. saganus</i> Bö's. et Str.	スジアカハシリグモ	by
94. <i>D. sulfureus</i> L. Koch	イオウイロハシリグモ	aMy by
95. <i>Pisaura lama</i> Bö's. et Str.	アズマキシダグモ	bF
Lycosidae コモリグモ科		
96. <i>Pardosa agraria</i> Tanaka	イナダハリゲコモリグモ	bFM cFM
97. <i>P. astrigera</i> L. Koch	ウツキコモリグモ	aF
98. <i>P. brevivulva</i> Tanaka	ヤマハリゲコモリグモ	cF
99. <i>Pirata clerchi</i> (Bö's. et Str.)	クラークコモリグモ	aFM bFM
100. <i>P. piratoides</i> (Bö's. et Str.)	イモコモリグモ	aFM bF
101. <i>P. tanakai</i> Brignoli	コガタコモリグモ	aFM bFM
Oxyopidae ササグモ科		
102. <i>Oxyopes koreanus</i> Paik	コウライササグモ	bF

Clubionidae フクログモ科

- | | | |
|--|-----------|------------|
| 103. <i>Chiracanthium japonicum</i> Bös. et Str. | カバキコマチグモ | aF cy |
| 104. <i>Clubiona japonicola</i> Bös. et Str. | ハマキフクログモ | aF |
| 105. <i>C. jucunda</i> (Karsch) | ヤハズフクログモ | bF dF |
| 106. <i>C. kurilensis</i> Bös. et Str. | ヒメフクログモ | aFM bFM |
| 107. <i>C. rostrata</i> Paik | マイコフクログモ | cM |
| 108. <i>C. tsurusakii</i> Hayashi | ツルサキフクログモ | aF bFM cFM |
| 109. <i>Itatsina praticola</i> (Bös. et Str.) | イタチグモ | aF |
| 110. <i>Phrurolithus nipponicus</i> Kishida | ウラシマグモ | aFM |
| 111. <i>Trachelas japonica</i> Bös. et Str. | ネコグモ | bF |

Anyphaenidae イヅツグモ科

- | | | |
|---|---------|-------|
| 112. <i>Anyphaena ayshides</i> Yaginuma | ナガイヅツグモ | aF bF |
|---|---------|-------|

Ctenidae シボグモ科

- | | | |
|----------------------------------|------|-----|
| 113. <i>Anahita fauna</i> Karsch | シボグモ | aFy |
|----------------------------------|------|-----|

Gnaphosidae ワシグモ科

- | | | |
|---|------------|----|
| 114. <i>Drassyllus yaginumai</i> Kamura | ヒメヨリメケムリグモ | bF |
| 115. <i>Gnaphosa kompirensis</i> Bös. et Str. | メキリグモ | bM |
| 116. <i>Herpyllus anatolicus</i> Kamura | ナミトンビグモ | aF |
| 117. <i>Kishidaiia albibimaculata</i> (Saito) | ヨツボシワシグモ | ay |
| 118. <i>Micaria japonica</i> Hayashi | ヤマトツヤグモ | bF |

Thomisidae カニグモ科

- | | | |
|--|------------|--------------|
| 119. <i>Diae a subdola</i> O. Pickard-Cambridge | コハナグモ | bFfMy cm |
| 120. <i>Heriaeus mellotteei</i> Simon | アシナガカニグモ | bfMy |
| 121. <i>Lysiteles coronatus</i> (Grube) | アマギエビスクモ | bF cFy |
| 122. <i>Misumenopuss tricuspidatus</i> (Fabricius) | ハナグモ | aFM bFf |
| 123. <i>Oxytate striatipes</i> L. Koch | ワカバグモ | bFM cMy |
| 124. <i>Pistius undulatus</i> Karsch | ガザミグモ | cy |
| 125. <i>Tmarus rimosus</i> Paik | セマルトラフカニグモ | cy |
| 126. <i>Xysticus kurilensis</i> Strand | チシマカニグモ | aFM bFfM cFM |
| 127. <i>X. trizonatus</i> Ono | オビボソカニグモ | dM |

Philodromidae エビグモ科

- | | | |
|---|---------|-----|
| 128. <i>Philodromus flavidus</i> Saito | キエビグモ | cy |
| 129. <i>P. spinifarsis</i> Simon | キハダエビグモ | aFM |
| 130. <i>P. subaureolus</i> Bös. et Str. | アサヒエビグモ | bFM |
| 131. <i>Tibellus tenellus</i> (L. Koch) | シャコグモ | aFy |

Salticidae ハエトリグモ科

- | | | |
|--|--------|----|
| 132. <i>Carrhotus xanthogramma</i> (Latreille) | ネコハエトリ | bF |
|--|--------|----|

133. <i>Evarcha albaria</i> (L. Koch)	マミジロハエトリ	aFM
134. <i>Harmochirus pullus</i> (Böls. et Str.)	キレワハエトリ	aFM bM
135. <i>Helicius cylindrata</i> (Karsch)	コジャバラハエトリ	aFM bM cFy
136. <i>Laufelia aenea</i> Simon	エキスハエトリ	ay
137. <i>Marpissa dybowskii</i> Kulczynski	オオハエトリ	amy
138. <i>M. magister</i> (Karsch)	オスクロハエトリ	aF
139. <i>M. pulla</i> (Karsch)	ヨダンハエトリ	aM
140. <i>Myrmarachne japonica</i> (Karsch)	アリグモ	cF
141. <i>Neon reticulatus</i> (Blackwall)	ネオンハエトリ	bF
142. <i>Phintella difficilis</i> (Böls. et Str.)	マガネアサヒハエトリ	bFf
143. <i>P. linea</i> (Karsch)	メガネアサヒハエトリ	bFM
144. <i>Plexippoides doenitzi</i> (Karsch)	デニッツハエトリ	aF bfy
145. <i>Rhene atrata</i> (Karsch)	カラスハエトリ	aM
146. <i>Yaginumaella ususudi</i> (Yaginuma)	ウススジハエトリ	ay bFM cMy

引用文献

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305pp. 保育社, 大阪.

丹沢のクモ 2 飯山観音周辺

山川 守・熊田憲一

筆者らは、丹沢山塊の真正蜘蛛類(1973)・同II(1979)によって丹沢山塊全体の真正蜘蛛類の分布状況を報告した。

しかし、東西40km、南北20km、標高差千数百mもある地域を全域に渡って調査しつづけても丹沢山塊の特性を把握することは困難であるため、各地域ごとに集中調査し、それを全域に広げて行くよう調査方法を変更した。

その一つのまとめが前回報告した「丹沢のクモ1 大倉周辺(1988)」であり、今回はその第2報となる。

飯山観音周辺の概要

神奈川県のほぼ中央、丹沢山塊の東部に位置し、標高284mの白山を中心とした「飯山白山森林公園」の中にある。林相はクヌギ・コナラ・ミズキ・ヤブツバキ等の雑木林およびスギ・ヒノキなどの植林で構成されている。

かつてはギフチョウの産地としても知られていたが、周辺部への大学の進出、公園整備などのため、環境はかなり変化しつつある。

目録

1. *Antrodiaetidae* カネコトタテグモ科
1. *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch) カネコトタテグモ
2. *Ctenizidae* トタテグモ科
2. *Ummidia fragaria* (Dönitz) キノボリトタテグモ
3. *Atypidae* ジグモ科
3. *Atypus karschi* Dönitz ジグモ
4. *Dictynidae* ハグモ科
4. *Dictyna foliicola* Böss. et Str. ヒナハグモ
5. *Uloboridae* ウズグモ科
5. *Hyptiotes affinis* Böss. et Str. オウギグモ
6. *Miagrammopes orientalis* Böss. et Str. マネキグモ
7. *Uloborus sybotides* Böss. et Str. カタハリウズグモ
8. *U. varians* Böss. et Str. ウズグモ

	6. Segestriidae エンマグモ科	
9.	<i>Ariadna laeralis</i> (Karsch)	ミヤグモ
10.	<i>Segesria nipponica</i> Kishida	コマツエンマグモ
	7. Oonopidae タマゴグモ科	
11.	<i>Orchesina okitsui</i> Oi	オキツハネグモ
	8. Scytodidae ヤマシログモ科	
12.	<i>Scytodes thoracica</i> (Latreille)	ユカタヤマシログモ
	9. Pholcidae ユウレイグモ科	
13.	<i>Pholcus crypticolens</i> Böss. et Str.	ユウレイグモ
	10. Theridiidae ヒメグモ科	
14.	<i>Achaearanea angulithorax</i> (Böss. et Str.)	ツリガネヒメグモ
15.	<i>A. culicivora</i> (Böss. et Str.)	カグヤヒメグモ
16.	<i>A. ferrumequinum</i> Böss. et Str.	ヒザブトヒメグモ
17.	<i>A. japonica</i> (Böss. et Str.)	ヒメグモ
18.	<i>A. kompirensis</i> (Böss. et Str.)	コンビラヒメグモ
19.	<i>A. tepidariorum</i> (C. Koch)	オオヒメグモ
20.	<i>Anelosimus crassipes</i> (Böss. et Str.)	アシブトヒメグモ
21.	<i>Argyrodes bonadea</i> (Karsch)	シロカネイソウロウグモ
22.	<i>A. cylindrogaster</i> (Simon)	オナガグモ
23.	<i>A. fissifrons</i> O.P.-Cambridge	チリイソウロウグモ
24.	<i>A. fur</i> Böss. et Str.	フタオイソウロウグモ
25.	<i>A. nipponicus</i> Kumada	ツノナガイソウロウグモ
26.	<i>A. saganus</i> (Döss. et Str.)	ヤリグモ
27.	<i>Chrysso argyrodiformis</i> (Yaginuma)	オダカグモ
28.	<i>C. punctifera</i> (Yaginuma)	ホシミドリヒメグモ
29.	<i>C. venusta</i> (Yaginuma)	コガネヒメグモ
30.	<i>Coleosoma octomaculatum</i> (Böss. et Str.)	ヤホシサヤヒメグモ
31.	<i>Dipoena castrata</i> Böss. et Str.	ボカシミジングモ
32.	<i>D. flavomarginata</i> Böss. et Str.	キベリミジングモ
33.	<i>D. mustelata</i> Böss. et Str.	カニミジングモ
34.	<i>D. mutilata</i> Böss. et Str.	コアカクロミジングモ
35.	<i>D. punctisparsa</i> Yaginuma	シモフリミジングモ
36.	<i>Enoplognatha transversifoveata</i> (Böss. et Str.)	カレハヒメグモ
37.	<i>Episinus affinis</i> Böss. et Str.	ヒシガタグモ
38.	<i>E. nubilus</i> Yaginuma	ムラクモヒシガタグモ
39.	<i>E. mirabilis</i> (Böss. et Str.)	ハラナガヒシガタグモ
40.	<i>Phoroncidia altiventris</i> Yoshida	ハラダカツクネグモ

41. <i>P. piula</i> (Karsch)	ツクネグモ
42. <i>Steatoda cavernicola</i> (Bö. et Str.)	ハンゲツオスナキグモ
43. <i>Stemmops nipponicus</i> Yaginuma	スネグロオチバヒメグモ
44. <i>Theridion chikunii</i> Yaginuma	バラギヒメグモ
45. <i>T. latifolium</i> Yaginuma	ヒロハヒメグモ
46. <i>T. rapulum</i> Yaginuma	ギボシヒメグモ
47. <i>T. sterninotatum</i> Bö. et Str.	ムナボシヒメグモ
48. <i>T. subbadultum</i> Bö. et Str.	コケヒメグモ
49. <i>T. subpallens</i> Bö. et Str.	ハイイロヒメグモ
50. <i>T. takayense</i> S. Saito	タカユヒメグモ
51. <i>T. yunohamense</i> Bö. et Str.	ユノハマヒメグモ
11. Linyphiidae サラグモ科	
52. <i>Arcuphanes tamaensis</i> (Oi)	タマヤミサラグモ
53. <i>Bathyphantes orientis</i> Oi	テナガグモ
54. <i>B. tateyamaensis</i> Oi	タテヤマテナガグモ
55. <i>Doenitzius parvus</i> Oi	コデニツツサラグモ
56. <i>Floronia bucculenta</i> (Clerck)	ハナサラグモ
57. <i>Labulla contortipes</i> (Karsch)	アショレグモ
58. <i>Linyphia albolimbata</i> Karsch	ヤガスリサラグモ
59. <i>L. fusca</i> (Oi)	クスミサラグモ
60. <i>L. japonica</i> (Oi)	ツリサラグモ
61. <i>L. limbatinella</i> Bö. et Str.	フタスジサラグモ
62. <i>L. longipedella</i> Bö. et Str.	アシナガサラグモ
63. <i>L. oideadicata</i> (Helsdingen)	ヘリジロサラグモ
64. <i>L. yunohamensis</i> Bö. et Str.	ユノハマサラグモ
65. <i>Meioneta nigra</i> Oi	クロケシグモ
66. <i>Ostearius melanopygus</i> (O.P.-Cambr.)	スソグロサラグモ
67. <i>Asperthorax communis</i> Oi	ザラアカムネグモ
68. <i>Diplocephaloides saganus</i> (Bö. et Str.)	ハラジロムナキグモ
69. <i>Nematogmus sanguinolentus</i> (Walckenaer)	チビアカサラグモ
70. <i>Oia imadatei</i> Oi	イマダテテングヌカグモ
71. <i>Strandella quadrimaculata</i> (Uyemura)	ヨツボシサラグモ
12. Mimetidae センショウグモ科	
72. <i>Ero japonica</i> Bö. et Str.	センショウグモ
73. <i>Mimetus japonicus</i> Uyemura	ハラビロセンショウグモ
13. Theridiosomatidae カラカラグモ科	
74. <i>Ogulnius pullus</i> Bö. et Str.	ヤマジグモ

75. <i>Theridiosoma epeiroides</i> Böss. et Str.	カラカラグモ
14. Anapidae ヨリメグモ科	
76. <i>Conoculus lyugadinus</i> Komatsu	ヨリメグモ
15. Mysmenidae コツブグモ科	
77. <i>Mysmenella jobi</i> (Kraus)	ナンブコツブグモ
16. Araneidae コガネグモ科	
78. <i>Acusilas coccineus</i> Simon	ハツリグモ
79. <i>Arachnura logio</i> Yaginuma	キジロオヒキグモ
80. <i>Araneus i shisawai</i> Kishida	イシサワオニグモ
81. <i>A. uyemurai</i> Yaginuma	ヤエンオニグモ
82. <i>A. tartaricus</i> (Kroneberg)	コケオニグモ
83. <i>A. uyemurai</i> Yaginuma	ヤマオニグモ
84. <i>A. ventricosus</i> (L. Koch)	オニグモ
85. <i>A. abscissus</i> (Kaesch)	キザハシオニグモ
86. <i>A. pseudocentrodes</i> Böss. et Str.	トガリオニグモ
87. <i>A. fuscocoloratus</i> Böss. et Str.	ヤミイロオニグモ
88. <i>A. ejusmodi</i> Böss. et Str.	ヌサオニグモ
89. <i>A. mitificus</i> (Simon)	ビジョオニグモ
90. <i>A. pentagrammicus</i> (Karsch)	アオオニグモ
91. <i>A. semilunaria</i> (Karsch)	マルヅメオニグモ
92. <i>A. variegatus</i> Yaginuma	ニシキオニグモ
93. <i>A. viperifer</i> Schenkel	カラオニグモ
94. <i>A. viridiventris</i> Yaginuma	ハラビロミドリオニグモ
95. <i>A.</i> sp.	マメオニグモ
96. <i>Araniella</i> sp.	ムツボシオニグモ
97. <i>Neoscona adianta</i> (Walckenaer)	ドヨウオニグモ
98. <i>N. mellotteei</i> (Simon)	ワキグロサツマノミダマシ
99. <i>N. scylla</i> (Karsch)	ヤマシロオニグモ
100. <i>N. scyloides</i> (Böss. et Str.)	サツマノミダマシ
101. <i>N. nautica</i> (L. Koch)	イエオニグモ
102. <i>Yaginumia sia</i> (Strand)	ズグロオニグモ
103. <i>Hypsosinga sanguinea</i> (C. Koch)	シロスジショウジョウグモ
104. <i>Pronous minutus</i> (S. Saito)	コオニグモモドキ
105. <i>Zilla astridae</i> (Strand)	サガオニグモ
106. <i>Z. sachalinensis</i> (S. Saito)	カラフトオニグモ
107. <i>Argiope amoena</i> L. Koch	コガネグモ
108. <i>A. boesenbergi</i> Levi	チュウガタコガネグモ

109. <i>A. minuta</i> Karsch	コガタコガネグモ
110. <i>A. bruennichii</i> (Scopoli)	ナガゴガネグモ
111. <i>Chorizopes nipponicus</i> Yaginuma	ヤマトカナエグモ
112. <i>Cyclosa argenteoalba</i> Böss. et Str.	ギンメッキゴミグモ
113. <i>C. atrata</i> Böss. et Str.	カラスゴミグモ
114. <i>C. ginnaga</i> Yaginuma	ギンナガゴミグモ
115. <i>C. japonica</i> Böss. et Str.	ヤマトゴミグモ
116. <i>C. laticauda</i> Böss. et Str.	キジロゴミグモ
117. <i>C. octotuberculata</i> Karsch	ゴミグモ
118. <i>C. sedeculata</i> Karsch	ヨツデゴミグモ
119. <i>Cyrtarachne bufo</i> (Böss. et Str.)	トリノフンダマシ
120. <i>C. inaequalis</i> Thorell	オオトリノフンダマシ
121. <i>C. nagasakiensis</i> Strand	シロオビトリノフンダマシ
122. <i>C. nigra</i> Yaginuma	クロトリノフンダマシ
123. <i>C. yunoharuensis</i> Strand	アカイロトリノフンダマシ
124. <i>Gasteracantha kuhlii</i> C. Koch	トゲグモ
125. <i>Larinia argiopiformis</i> Böss. et Str.	コガネグモダマシ
126. <i>Meta reticuloides</i> Yaginuma	ヤマジドヨウグモ
127. <i>Metleucauge kompirebsis</i> (Böss. et Str.)	タニマノドヨウグモ
128. <i>M. yunohamensis</i> (Böss. et Str.)	メガネドヨウグモ
129. <i>Nephila clavata</i> L. Koch	ジョロウグモ
130. <i>Orgarius hobsoni</i> (O. P.-Cambridge)	マメイタイセキグモ
131. <i>O. sexspinosa</i> (Thorell)	ゲホウグモ
17. <i>Tetragnathidae</i> アシナガグモ科	
132. <i>Dyschiriognatha tenera</i> (Karsch)	ヒメアシナガグモ
133. <i>Leucauge magnifica</i> Yaginuma	オオシロカネグモ
134. <i>L. subblanda</i> Böss. et Str.	コシロカネグモ
135. <i>L. subgemmea</i> Böss. et Str.	キララシロカネグモ
136. <i>Tetragnatha caudicula</i> (Karsch)	トガリアシナガグモ
137. <i>T. maxillosa</i> Thorell	ヤサガタアシナガグモ
138. <i>T. pinicola</i> L. Koch	ミドリアシナガグモ
139. <i>T. praedonia</i> L. Koch	アシナガグモ
140. <i>T. squamata</i> Karsch	ウロコアシナガグモ
18. <i>Urocteidae</i> ヒラタグモ科	
141. <i>Uroctea compactilis</i> L. Koch	ヒラタグモ
19. <i>Agelenidae</i> タナグモ科	
142. <i>Agelena limbata</i> Thorell	クサグモ

143. <i>A. opulenta</i> L. Koch	コクサグモ
144. <i>Coelotes corasides</i> (Bö. et Str.)	ヤマヤチグモ
145. <i>C. exitialis</i> L. Koch	ヤチグモ
146. <i>C. insidiosus</i> L. Koch	シモフリヤチグモ
147. <i>C. kitazawai</i> Yaginuma	アズマヤチグモ
148. <i>C. luctuosus</i> L. Koch	メガネヤチグモ
20. Pisauridae キシダグモ科	
149. <i>Dolomedes pallitarsis</i> Dö. et Str.	スジブトハシリグモ
150. <i>D. raptor</i> Bö. et Str.	アオグロハシリグモ
151. <i>D. saganus</i> Bö. et Str.	スジアカハシリグモ
152. <i>D. sulfureus</i> L. Koch	イオウイロハシリグモ
153. <i>Pisaura lama</i> Bö. et Str.	アズマキシダグモ
21. Lycosidae コモリグモ科	
154. <i>Arctosa depectinata</i> (Bö. et Str.)	カガリビコモリグモ
155. <i>A. ebicha</i> Yaginuma	エビチャコモリグモ
156. <i>A. fujii</i> Tanaka	フジイコモリグモ
157. <i>Lycosa coelestis</i> (L. Koch)	ハラクロコモリグモ
158. <i>Pardosa astringera</i> L. Koch	ウツキコモリグモ
159. <i>P. brevivulva</i> Tanaka	ヤマハリゲコモリグモ
160. <i>P. laura</i> Karsch	ハリゲコモリグモ
161. <i>P. pseudoannulata</i> (Bö. et Str.)	キクツキコモリグモ
162. <i>Pirata clercki</i> (Bö. et Str.)	クラークコモリグモ
163. <i>P. procurvus</i> (Bö. et Str.)	チビコモリグモ
164. <i>Tricca japonica</i> Simon	ヒノマルコモリグモ
165. <i>Trochosa terricola</i> (Thorell)	カラフトコモリグモ
22. Oxyopidae ササグモ科	
166. <i>Oxyopes badius</i> Yaginuma	クリチャササグモ
167. <i>O. sertatus</i> L. Koch	ササグモ
23. Clubionidae フクログモ科	
168. <i>Chiracanthium eutittha</i> Bö. et Str.	アシナガコマチグモ
169. <i>C. japonicum</i> Bö. et Str.	カバキコマチグモ
170. <i>C. lascivum</i> Karsch	ヤマトコマチグモ
171. <i>Clubiona jucunda</i> (Karsch)	ヤハズフクログモ
172. <i>C. vigil</i> Karsch	ムナアカフクログモ
173. <i>Orthobula crucifera</i> Bö. et Str.	オトヒメグモ
174. <i>Phrurolithus komurai</i> Yaginuma	コムラウラシマグモ
175. <i>P. pennatus</i> Yaginuma	ヤバネウラシマグモ

176. <i>P.</i> sp.	キレオビウラシマグモ
177. <i>Trachelas japonicus</i> Böss. et Str.	ネコグモ
24. Anyphaenidae イヅツグモ科	
178. <i>Anyphaena ayshides</i> Yaginuma	ナガイヅツグモ
179. <i>A. pugil</i> Karsch	イヅツグモ
25. Ctenidae シボグモ科	
180. <i>Anahita fauna</i> Karsch	シボグモ
26. Heteropodidae アシダカグモ科	
181. <i>Heteropoda forcipata</i> (Karsch)	コアシダカグモ
182. <i>H. venatoria</i> (Linnaeus, 1758)	アシダカグモ
27. Gnaphosidea ワシグモ科	
183. <i>Drassodes serratidens</i> Schenkel	トラフワシグモ
184. <i>Gnaphosa kompirensis</i> Böss. et Str.	メキリグモ
28. Thomisidae カニグモ科	
185. <i>Coriarachne fulvipes</i> (Karsch)	コカニグモ
186. <i>Bassaniана decorata</i> (Karsch)	キハダカニグモ
187. <i>Heriaeus mellotteei</i> Simon	アシナガカニグモ
188. <i>Lysiteles coronatus</i> (Grube)	アマギエビスクグモ
189. <i>Diaeа subdola</i> O.P.-Cambridge	コハナグモ
190. <i>Misumenops tricuspidatus</i> (Fabricius)	ハナグモ
191. <i>Oxytate striatipes</i> L. Koch	ワカバグモ
192. <i>Pistius undulatus</i> Karsch	ガザミグモ
193. <i>Synaema globosum</i> (Fabricius)	フノジグモ
194. <i>Thomisus labefactus</i> Karsch	アズチグモ
195. <i>Tmarus piger</i> (Walckenaer)	トラフカニグモ
196. <i>T. rimosus</i> Paik	セマルトラフカニグモ
197. <i>Xysticus croceus</i> Fox	ヤミイロカニグモ
198. <i>X. saganus</i> Böss. et Str.	オオヤミイロカニグモ
29. Philodromidae エビグモ科	
199. <i>Philodromus auricomus</i> L. Koch	キンイロエビグモ
200. <i>P. flavidus</i> S. Saito	キエビグモ
201. <i>P. spinitarsis</i> Simon	キハダエビグモ
202. <i>P. subaureolus</i> Böss. et Str.	アサヒエビグモ
203. <i>Tibellus tenellus</i> (L. Koch)	シャコグモ
204. <i>Thanatus nipponicus</i> Yaginuma	ヤマトヤドカリグモ
205. <i>T. miniaceus</i> Simon	ヤドカリグモ

30. Salticidae ハエトリグモ科

206. <i>Aelurillus fesivus</i> L. Koch	ヤマジハエトリ
207. <i>Carrhotus xanthogramma</i> (Lareille)	ネコハエトリ
208. <i>Evarcha albaria</i> (L. Koch)	マミジロハエトリ
209. <i>Harmochirus brachiatus</i> (Thorell)	ウデブトハエトリ
210. <i>H. pullus</i> (Bos. et Str.)	キレワハエトリ
211. <i>Laufelia aenea</i> Simon	エキスハエトリ
212. <i>Marpissa dybowskii</i> (Kulczynski)	オオハエトリ
213. <i>M. magister</i> (Karsch)	オスクロハエトリ
214. <i>M. pulla</i> (Karsch)	ヨダンハエトリ
215. <i>Menemerus confusus</i> Bos. et Str.	シラヒゲハエトリ
216. <i>Myrmarachne innermichelis</i> Bos. et Str.	ヤサアリグモ
217. <i>M. japonica</i> (Karsch)	アリグモ
218. <i>Phintella bifurcilinea</i> (Bos. et Str.)	キアシハエトリ
219. <i>Phintella abnormis</i> (Bos. et Str.)	チャイロアサヒハエトリ
220. <i>P. difficilis</i> (Bos. et Str.)	マガネアサヒハエトリ
221. <i>P. linea</i> (Karsch)	メガネアサヒハエトリ
222. <i>Plexippoides doenitzi</i> (Karsch)	デニッツハエトリ
223. <i>Plexippus annulipedis</i> S. Saito	マダラスジハエトリ
224. <i>P. paykulli</i> (Audouin)	チャスジハエトリ
225. <i>P. setipes</i> Karsch	ミスジハエトリ
226. <i>Rhene atrata</i> (Karsch)	カラスハエトリ
227. <i>Silerella vittata</i> (Karsch)	アオオビハエトリ
228. <i>Yaginumaella ususudi</i> (Yaginuma)	ウススジハエトリ
229. <i>Yaginumanis sexdentatus</i> (Yaginuma)	ムツバハエトリ

引 用 文 献

- 山川 守・熊田 審一, 1973. 丹沢山塊の真正蜘蛛類. *Atypus*, (60):31-54.
 _____・_____, 1979. 丹沢山塊の真正蜘蛛類Ⅱ. *Atypus*, (74):1-14.
 _____・_____, 1988. 丹沢のクモ 1. 大倉周辺. *Kishidai a*, (56):4-10.

屋久島のクモ類採集記録

谷川 明男*

Spiders from Yakushima Island

Akio Tanikawa *

筆者は、1990年7月14日から18日まで、屋久島（鹿児島県熊毛郡上屋久町、屋久町）においてクモ類の採集を行なった。採集日数も少なく、また、ゴミクモ類の採集を主たる目的として行なつたので、確認できた種類数はあまり多くないが、渡瀬線をはさんで奄美大島と対峙する地理的位置のおもしろさ、その恵まれた自然環境など、かなり魅力ある島なので今後の参考のために採集結果をここに報告する。採集はハンドソーティングを主として、状況に応じてビーティング、スウェーピングを加えて行なった。

屋久島は九州南端の佐多岬の南方約60kmに位置し、周囲約105km、総面積約500km²の日本で7番めに大きい島で、ほぼ円形に近い形をしている。地形は大変急峻で、海からいきなりそり立つ山岳島として有名である。島の中央部には、九州最高峰でもある標高1935mの宮之浦岳をはじめとして、永田岳、翁岳、安房岳、筑紫岳、黒味岳などの1800m以上の山岳が重なりあい、島の外周にそっても、国割岳、愛子岳、本富岳（もっちょむだけ）、割石岳、砂沙岳、七五岳などの山々が並んでいる。このように南方に位置することと標高差が大きいことから、屋久島は幅広い気候帯に恵まれている。標高400m以下ではガジュマルやアコウ、メヒルギ、グンバイヒルガオなどの亜熱帯植物がみられ、標高1200m以下は、タブ、シイ、イスノキ、ウラジロガシなどからなる照葉樹林帯、標高1200mから1800m付近まではヤクスキ、ツガ、ヒメシャラ、ツゲなどからなる上部暖帯樹林帯、それ以上はヤクザサ、ヤクシマシャクナゲ、アセビ、ビャクシンなどからなる亜高山帯となっている。また、「一ヶ月に35日雨が降る」と言われているように非常に雨が多く、平地での平均雨量は3000～5000mm、山岳地帯では10000mm以上の降水量がある。そして、この恵まれた自然環境の中に、ヤクシカやヤクザルなどのホ乳類、ヤクシマアカコッコ、アカヒゲ、カラスバトなどの鳥類が生息しており、また、南方系、北方系のさまざまな昆虫類の宝庫でもある。

なお、目録の記述にあたって、科の配列は原色日本クモ類図鑑（八木沼、1986）にしたがい、科内での種の配列については学名のアルファベット順とし、Bösenberg et StrandはBös. et Str.と略記した。また、採集データは採集日・採集地・性の順に記し、性については成体は♀・♂、幼体はyで表し、採集日の年月および個体数は省略した。なお、以下に種名を掲げたもの以外にも何種か種名不明のものが採集されたが、それらについては今後の研究課題としたい。

* 神奈川県立野庭高等学校（〒233 横浜市港南区野庭町1660）

目 錄

Heptathelidae キムラグモ科

1. *Heptathera kimurai* Kishida, 1923 キムラグモ

17 原♀, 15 国割岳山麓♀.

Uloboridae ウズグモ科

2. *Uloborus varians* Bos. et Str., 1906 ウズグモ

14・15 宮之浦♀♂, 15 国割岳山麓♀, 15 大川の滝♀, 17 楠川歩道入口♀.

Pholcidae ユウレイグモ科

3. *Pholcus crypticolens* Bos. et Str., 1906 ユウレイグモ

14 宮之浦♂.

Theridiidae ヒメグモ科

4. *Achaearanea culicivola* (Bos. et Str., 1906) カグヤヒメグモ

17 原♀.

5. *A. ferrumequinum* (Bos. et Str., 1906) ヒザブトヒメグモ

15 国割岳山麓♀, 17 楠川歩道入口♂, 17 湯泊♀.

6. *A. japonica* (Bos. et Str., 1906) ヒメグモ

14・15 宮之浦♀♂, 15 大川の滝♀, 15 国割岳山麓♂, 16 安房林道♀♂

7. *A. tepidariorum* (C. Koch, 1841) オオヒメグモ

14 宮之浦♀, 15 大川の滝♀, 15 仲間♀, 16 安房林道♂, 17 楠川歩道入口♀♂.

8. *Anelosimus crassipes* (Bos. et Str., 1906) アシブトヒメグモ

15 宮之浦♀♂, 15 仲間♂, 17 城下♂.

9. *Argyrodes cylindratus* Thorell, 1889 トビジロイソウロウグモ

14・15 宮之浦♀♂, 15 国割岳山麓♀, 15 仲間♀, 17 楠川歩道入口♀.

10. *A. cylindrogaster* (Simon, 1888) オナガグモ

15 宮之浦♀, 17 原♀.

11. *A. fissifrons* O.P.-Cambridge, 1869 チリイソウロウグモ

15 仲間♂.

12. *A. saganus* (Dön. et Str., 1906) ヤリグモ

15 宮之浦♀, 17 楠川歩道入口♂.

13. *Coleosoma blandum* O.P.-Cambridge, 1882 サヤヒメグモ

15 仲間♂.

14. *Dipoena flavomarginata* Bos. et Str., 1906 キベリミジングモ

15 宮之浦♀♂, 15 仲間♂, 17 楠川歩道入口♂.

15. *D. mustelina* (Simon, 1888) カニミジングモ

15 宮之浦♀, 17 楠川歩道入口♀♂.

16. *Episinus nubilus* Yaginuma, 1960 ムラクモヒシガタグモ
17 楠川歩道入口♀.
17. *Theridion rapulum* Yaginuma, 1960 ギボシヒメグモ
16 安房林道・淀川小屋間♀.
18. *T. sterninotatum* Böss et Str., 1906 ムナボシヒメグモ
15 宮之浦♀, 15 国割岳山麓♂, 17 楠川歩道入口♀.
Nesticidae ホラヒメグモ科
19. *Nesticus brevipes* Yaginuma, 1970 コホラヒメグモ
15 宮之浦♀.
Linyphiidae サラグモ科
20. *Linyphia oedicata* (Helsdingen, 1969) ヘリジロサラグモ
15 宮之浦♀, 15 大川の滝♂.
21. *Nematogmus sanguinolentus* (Walckenaer, 1837) チビアカサラグモ
- Mimetidae センショウグモ科
22. *Ero japonica* Böss. et Str., 1906 センショウグモ
15 宮之浦♀, 17 城下♀, 17 楠川歩道入口♀♂.
Anapidae ヨリメグモ科
23. *Conoculus lygadinus* Komatsu, 1940 ヨリメグモ
15 宮之浦♀, 15 国割岳山麓♀.
Araneidae コガネグモ科
24. *Araneus ejusmodi* Böss. et Str., 1906 ヌサオニグモ
14・15・16 宮之浦♀♂.
25. *A. pentagrammicus* (Karsch, 1879) アオオニグモ
15 宮之浦♀, 17 楠川歩道入口♀.
26. *A. viridiventris* Yaginuma, 1969 ハラビロミドリオニグモ
15 宮之浦♂.
27. *Argiope aetherea* Walckenaer, 1841 ムシバミコガネグモ
15 宮之浦♀.
28. *A. bruennichi* (Scopoli, 1772) ナガコガネグモ
15 仲間y.
29. *Cyclosa ginnaga* Yaginuma, 1959 ギンナガゴミグモ
15 宮之浦♀, 15 国割岳山麓♀, 17 原♀♂, 17 楠川歩道入口♀♂.
30. *C. insulana* (Costa, 1834) シマゴミグモ
14・15 宮之浦♀, 15 大川の滝♀.
31. *C. laticauda* Böss. et Str., 1906 キジロゴミグモ
15 宮之浦y.

32. *C. vallata* Keyserling, 1886 マルゴミグモ
 14・15・16 宮之浦♀♂, 15 仲間♀.
 33. *Cyrtarachne inaequalis* Thorell, 1895 オオトリノフンダマシ
 15 宮之浦y.
 34. *C. nagasakiensis* Strand, 1916 シロオビトリノフンダマシ
 15 宮之浦♀, 17 城下♂, 17 楠川歩道入口♂.
 35. *C. yunohamensis* Strand, 1916 アカイロトリノフンダマシ
 17 楠川歩道入口♀.
 36. *Cyrtophora moluccensis* (Doleschall, 1857) スズミグモ
 15 仲間y.
 37. *Metleucauge kompirensis* (Bos. et Str., 1906) タニマノドヨウグモ
 18 白谷雲水峡♀.
 38. *Neoscona mellotteei* (Simon, 1895) ワキグロサツマノミダマシ
 15 仲間y, 17 楠川歩道入口y, 17 湯泊y.
 39. *N. scylla* (Karsch, 1879) ヤマシロオニグモ
 14・15 宮之浦♀, 17 仲間♀, 17 城下♀, 17 楠川歩道入口♂, 17 湯泊♂.
 40. *N. scylloides* (Bos. et Str., 1906) サツマノミダマシ
 17 城下y.
 41. *N. subpullata* (Bos. et Str., 1906) ヘリジロオニグモ
 14・15 宮之浦♀, 17 楠川歩道入口♂.
 42. *N. theisi* (Walckenaer, 1841) ホシスジオニグモ
 14 宮之浦♀.
 43. *Nephila clavata* L. Koch, 1878 ジョロウグモ
 15 宮之浦y.
 44. *N. maculata* (Fabricius, 1793) オオジョロウグモ
 15 仲間y.
- Tetragnathidae アシナガグモ科
45. *Dyschiriognatha tenera* (Karsch, 1879) ヒメアシナガグモ
 15 永田♀.
 46. *Leucauge blanda* (L. Koch, 1878) チュウガタシロカネグモ
 14・16 宮之浦♀♂, 17 湯泊♀.
 47. *L. magnifica* Yaginuma, 1954 オオシロカネグモ
 14・15 宮之浦♀♂, 15 仲間♀, 16 安房林道♀.
 48. *L. subblanda* Bos. et Str., 1906 コシロカネグモ
 17 原♀.
 49. *Tetragnatha maxillosa* Thorell, 1895 ヤサガタアシナガグモ
 15 宮之浦♀♂.

50. <i>T. praedonia</i> L. Koch, 1878	アシナガグモ
14・15 宮之浦♀♂.	
Agelenidae タナグモ科	
51. <i>Agelena limbata</i> Thorell, 1879	クサグモ
15 宮之浦♂, 17 湯泊♂, 17 楠川♀.	
Pisauridae キシダグモ科	
52. <i>Dolomedes saganus</i> Böös. et Str., 1906	スジアカハシリグモ
17 楠川歩道入口♀♂.	
53. <i>Hygropoda higenaga</i> (Kishida, 1936)	ヒゲナガハシリグモ
15 宮之浦♀.	
Lycosidae コモリグモ科	
54. <i>Pardosa astrigera</i> L. Koch, 1878	ウツキコモリグモ
17 楠川歩道入口♂, 18 いなか浜♀♂.	
55. <i>Pirata clercki</i> (Böös. et Str., 1906)	クラークコモリグモ
17 楠川歩道入口♀, 18 白谷雲水峠♂.	
56. <i>P. procurvus</i> (Böös. et Str., 1906)	チビコモリグモ
15 国割岳山麓♀♂, 17 楠川歩道入口♀♂, 17 原♂.	
Oxyopidae ササグモ科	
57. <i>Oxyopes macilentus</i> L. Koch, 1878	シマササグモ
14 宮之浦♀, 17 楠川歩道入口♀♂.	
58. <i>O. sertatus</i> L. Koch, 1878	ササグモ
14 宮之浦♂, 17 城下♀, 17 楠川歩道入口♀.	
Clubionidae フクログモ科	
59. <i>Chiracanthium unicum</i> Böös. et Str., 1906	ヤサコマチグモ
15 宮之浦♂.	
60. <i>Clubiona vigil</i> Karsch, 1879	ムナアカフクログモ
17 湯泊♂.	
61. <i>C. yaginumai</i> Hayashi, 1989	ヤギヌマフクログモ
15 国割岳山麓♀, 16 安房林道♀, 17 湯泊♀, 17 楠川歩道入口♀♂.	
Anyphaenidae イヅツグモ科	
62. <i>Anyphaena pugil</i> Karsch, 1879	イヅツグモ
16 安房林道♀.	
Heteropodidae アシダカグモ科	
63. <i>Heteropoda venatoria</i> (Linnaeus, 1758)	アシダカグモ
14 宮之浦♀.	
Thomisidae カニグモ科	
64. <i>Boliscus tuberculatus</i> (Simon, 1886)	イボカニグモ

- 15 仲間♂, 17 原♀, 17 湯泊♀.
65. *Diaeaa subdola* O.P.-Cambridge, 1885 コハナグモ
17 城下♀.
66. *Lysiteles coronatus* (Grube, 1861) アマギエビスクモ
16 安房林道♀.
67. *Misumenops tricuspidatus* (Fabricius, 1775) ハナグモ
17 城下♀.
68. *Runcinia albostriata* Böss. et Str., 1906 シロスジグモ
17 城下♀♂.
69. *Thomisus labefactus* Karsch, 1881 アズチグモ
17 楠川歩道入口♂.
70. *Tmarus yaginumai* Ono, 1977 ヤギヌマノセマルトラフカニグモ
17 楠川歩道入口♀♂.
71. *Xysticus croceus* Fox, 1937 ヤミイロカニグモ
15 宮之浦♀.
- Philodromidae エビグモ科
72. *Philodromus flavidus* Saito, 1934 キエビグモ
15 宮之浦♀.
73. *P. subaureolus* Böss. et Str., 1906 アサヒエビグモ
15 国割岳山麓♀, 17 湯泊♀.
- Salticidae ハエトリグモ科
74. *Evarcha albaria* (L. Koch, 1878) マミジロハエトリ
15 国割岳山麓♀, 17 楠川歩道入口♀.
75. *E. crassipes* (Karsch, 1881) アシブトハエトリ
17 城下♂.
76. *Phintella bifurcilinea* (Böss. et Str., 1906) キアシハエトリ
17 楠川歩道入口♀♂, 17 城下♂.
77. *P. difficilis* (Böss. et Str., 1906) マガネアサヒハエトリ
16 安房林道♀, 17 楠川歩道入口♀.
78. *Plexippus paykulli* (Audouin, 1827) チヤスジハエトリ
14 宮之浦♀, 15 仲間♀.
79. *Rhene atrata* (Karsch, 1881) カラスハエトリ
14 宮之浦♂, 17 楠川歩道♀.

東京蜘蛛談話会 1989 年度観察採集会報告

八王子城跡のクモ

新 海 明

1989 年度における東京蜘蛛談話会観察採集会は、1989年5月21日、7月16日、10月22日、1990年2月18日の4回に渡って、東京八王子市にある八王子城跡において行われた。ここは、1977 年度の観察採集会が行われた場所であり、その時には173種のクモが観察されている。12年前の種類構成との比較をすることも、今回のテーマのひとつであった。

採集観察地の概要については、八王子城跡のクモ(I)（新海栄一他, 1978）を参照されたい。



◀ 1989年7月16日

▼ 1990年2月18日



参加者（アイウエオ順、敬称略）

1989年5月21日（日）曇りのち晴れ

磯部達男、稻葉茂代、大石和美、大石洋人、大塚昭彦、小野展嗣、熊田憲一、小峰光弘、笹岡文雄、新海明、高橋登、谷川明男、長島忠義、古浜隆、本木洋子（以上15名）

1989年7月16日（日）雨

浅間茂、池田博明、稻葉茂代、熊田憲一、笹岡文雄、佐藤幸子、佐藤尚子、新海明、新海栄一、谷川明男、長井芳夫、中島晴子、布施佳子（以上13名）

1989年10月22日（日）曇りのち雨

池田博明、板倉泰弘、稻葉茂代、大石洋人、大石征夫、小峰光弘、貞元巳良、新海明、新海栄一、高橋登、谷川明男、平松毅久、布施佳子、古浜隆（以上14名）

1990年2月18日（日）晴れ

池田博明、稻葉茂代、大石岳人、大石洋人、大石征夫、大塚昭彦、木村知之、熊田憲一、笹岡文雄、新海明、高橋登、高橋祐子、谷川明男、永田勝利、萩本房枝、萩本善久、平松毅久、古浜隆（以上18名）

目 錄

この目録は当日採集あるいは観察された種と、後日標本同定された種を新海が記録し、集計したものであるが、目録中ではその区別はしていない。

略号の説明、M（雄成体）、F（雌成体）、m（雄幼体）、f（雌幼体）、y（雌雄不明幼体）、e（卵のう）、－（未確認）

5月 7月 10月 2月

Antrodiaetidae カネコトタテグモ科					
1.	<i>Antrodiaetus roretzi</i>	カネコトタテグモ	y	—	y y
Ctenizidae トタテグモ科					
2.	<i>Ummidia flagaria</i>	キノボリトタテグモ		y	— y y
Atypidae ジグモ科					
3.	<i>Atypus karsch</i>	ジグモ	y	FM	y y
Dictynidae ハグモ科					
*	4. <i>Lathys</i> sp.	カレハグモの一種	F	—	— —
Uloboridae ウズグモ科					
5.	<i>Hyptiotes affinis</i>	オウギグモ	—	—	F —
6.	<i>Miagrammopes orientalis</i>	マネキグモ	my	F	y —
7.	<i>Uloborus sybotides</i>	カタハリウズグモ	—	F	— —
8.	<i>U. varians</i>	ウズグモ	y	—	y y
Segestriidae エンマグモ科					

			5月	7月	10月	2月	
9.	<i>Ariadna lateralis</i>	ミヤグモ	F	y	-	y	
10.	<i>Segestris nipponica</i>	コマツエンマグモ	-	-	-	Ffy	
	Leptonetidae	マシラグモ科					
11.	<i>Leptoneta striata</i>	ヨコフマシラグモ	-	-	-	fm	
12.	<i>L. sp.</i>	マシラグモの一種	-	-	-	FM	
	Oonopidae	タマゴグモ科					
* 13.	<i>Ischnothyreus narutomii</i>	ナルトミダニグモ	FM	-	-	-	
	Pholcidae	ユウレイグモ科					
14.	<i>Pholcus crypticolens</i>	ユウレイグモ	f m	FM	Fy	fy	
	Theridiidae	ヒメグモ科					
15.	<i>Achaeearnea tepidariorum</i>	オオヒメグモ	FM	My	FMy	y	-
16.	<i>A. angulithorax</i>	ツリガネヒメグモ	m	F	-	y	
17.	<i>A. culicivora</i>	カグヤヒメグモ	-	Ff	-	y	
18.	<i>A. japonica</i>	ヒメグモ	-	FMf	Fy	y	
* 19.	<i>A. asiatica</i>	キヒメグモ	f	m	e	-	
20.	<i>Theridion chikunii</i>	バラギヒメグモ	FMf	f	y	y	
21.	<i>T. latifolium</i>	ヒロハヒメグモ	F	-	-	-	
22.	<i>T. subadulatum</i>	コケヒメグモ	F	F	-	y	
23.	<i>T. sterninotatum</i>	ムナボシヒメグモ	FM	fmy	Fy	y	Fm
24.	<i>T. rapulum</i>	ギボシヒメグモ	-	Fy	-	-	
25.	<i>T. subpallens</i>	ハイイロヒメグモ	M	-	-	y	
* 26.	<i>T. lyricum</i>	シモフリヒメグモ	m	M	-	-	
27.	<i>Anelosimus crassipes</i>	アシブトヒメグモ	Fy	y	y	-	
* 28.	<i>A. iwawakiensis</i>	イワワキアシブトヒメグモ	F	-	-	-	
29.	<i>Dipoena castrata</i>	ボカシミジングモ	FM	my	-	-	y
30.	<i>D. flavomarginata</i>	キベリミジングモ	f m	-	-	-	
31.	<i>D. mustelina</i>	カニミジングモ	FM	FM	y	-	
32.	<i>D. punctisparsa</i>	シモフリミジングモ	FM	fy	-	-	
* 33.	<i>D. mutilata</i>	コアカクロミジングモ	FM	-	-	-	
* 34.	<i>D. okumae</i>	クロミジングモ	f m	-	-	y	
* 35.	<i>D. sp.</i>	ミジングモの一種	M	-	-	-	
36.	<i>Phoroncidia pilula</i>	ツクネグモ	F	-	FM	-	
37.	<i>Chrysso punctifera</i>	ホシミドリヒメグモ	Ff	Ffm	my	y	
38.	<i>C. venusta</i>	コガネヒメグモ	-	FMy	y	-	
39.	<i>Episinus affinis</i>	ヒシガタグモ	F	-	-	-	
40.	<i>E. nubilus</i>	ムラクモヒシガタグモ	fm	F	y	y	

			5月	7月	10月	2月
* 41.	<i>Coleosoma octomaculatum</i>	ヤホシヒメグモ	—	—	—	y
42.	<i>Stemmops nipponicus</i>	スネグロオチバヒメグモ	y	—	—	y
43.	<i>Argyrodes fissifrons</i>	チリイソウロウグモ	fy	my	—	—
44.	<i>A. fur</i>	フタオイソウロウグモ	f my	FM my	y	f
* 45.	<i>A. cylindratus</i>	トビジロイソウロウグモ	—	M	—	—
46.	<i>A. saganus</i>	ヤリグモ	Fm	FMy	y	fy
47.	<i>A. cylindrogaster</i>	オナガグモ	Ffy	FM	y	—
* 48.	<i>A. nipponicus</i>	ツノナガイソウロウグモ	m	F	Fy	y
Nesticidae ホラヒメグモ科						
49.	<i>Nesticus brevipes</i>	コホラヒメグモ	FM fm	—	—	Fy
Theridiosomatidae カラカラグモ科						
* 50.	<i>Theridiosoma epeiroides</i>	カラカラグモ	—	e	m	—
51.	<i>Ogulunius pullus</i>	ヤマジグモ	Fy	FM	y	—
52.	<i>Wendilgarda</i> sp.	ナルコグモ	My	e	y	—
Mimetidae センショウグモ科						
53.	<i>Ero japonica</i>	センショウグモ	Fy	M	e	—
Linyphiidae サラグモ科						
54.	<i>Linyphia longipedella</i>	アシナガサラグモ	y	y	y	—
55.	<i>L. yunohamensis</i>	ユノハマサラグモ	F	y	y	fy
56.	<i>L. oideadicata</i>	ヘリジロサラグモ	F	—	—	my
57.	<i>L. japonica</i>	ツリサラグモ	Mf	—	y	y
58.	<i>L. fusca</i>	クスミサラグモ	F	y	f my	m
59.	<i>Arcuphantes tamaensis</i>	タマヤミサラグモ	FM fm	—	M	Fmf my
60.	<i>Floronia bucculenta</i>	ハナサラグモ	—	—	F	—
61.	<i>Labulla contortipes</i>	アショレグモ	F	y	my	M
* 62.	<i>Bathyphantes tateyamensis</i>	タテヤマテナガグモ	M	—	—	FM
* 63.	<i>Doenizius peniculus</i>	デニーツツサラグモ	—	—	—	F
* 64.	<i>Meioneta concave</i>	クボミケシグモ	—	—	—	FM
* 65.	<i>M. pentagona</i>	ゴカクケシグモ	—	—	—	F
* 66.	<i>M. unguilata</i>	ツメケシグモ	M	—	—	—
* 67.	<i>M.</i> sp.	ケシグモの一種	F	—	—	—
* 68.	<i>Asperthorax communis</i>	ザラアカムネグモ	F	—	—	—
* 69.	<i>Ummeliata tokyoensis</i>	トウキョウアカムネグモ	—	—	—	F
* 70.	<i>Erigone promineus</i>	ノコギリヒザグモ	M	—	—	—
* 71.	<i>Gongylidioides</i> sp.	ズキンヌカグモの一種	F	—	—	—
72.	<i>Micrargus latitegulatus</i>	ヒロテゴマグモ	—	—	—	F

			5月	7月	10月	2月
* 73.	<i>Nematogmus sanguinolentus</i>	チビアカサラグモ	M	-	-	-
	Anapidae	ヨリメグモ科				
74.	<i>Conoculus lygadinus</i>	ヨリメグモ	FMfy	F	y	-
	Mysmenidae	コツブグモ科				
75.	<i>Mysmenella jobi</i>	ナンブコツブグモ	Ffy	F	my	m
	Urocteidae	ヒラタグモ科				
76.	<i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ	y	y	y	-
	Araneidae	コガネグモ科				
77.	<i>Araneus ventricosus</i>	オニグモ	Fy	F	y	-
78.	<i>A. uyemurai</i>	ヤマオニグモ	y	-	-	-
79.	<i>A. macacus</i>	ヤエンオニグモ	-	y	y	-
80.	<i>A. abscissus</i>	キザハシオニグモ	-	f	y	-
81.	<i>A. tsuno</i>	ツノオニグモ	f	-	-	-
82.	<i>A. punctigera</i>	コゲチャオニグモ	-	y	y	-
83.	<i>A. pseudocentrodes</i>	トガリオニグモ	fy	FMy	y	y
84.	<i>A. ejusmodi</i>	ヌサオニグモ	-	F	-	-
85.	<i>A. semilunaris</i>	マルヅメオニグモ	-	M	-	-
86.	<i>A. pentagrammicus</i>	アオオニグモ	F	M	-	y
87.	<i>A. viperifer</i>	カラオニグモ	Fy	-	y	-
88.	<i>Araniella</i> sp.	ムツボシオニグモの一種	Mf	-	-	y
89.	<i>Neoscona scylla</i>	ヤマシロオニグモ	y	F	-	y
90.	<i>N. scylloides</i>	サツマノミダマシ	y	fy	-	-
91.	<i>N. mellotteei</i>	ワキグロサツマノミダマシ	y	y	-	-
92.	<i>N. nautica</i>	イエオニグモ	-	Ffmy	-	-
93.	<i>N. fuscocolorata</i>	ヤミイロオニグモ	y	F	my	-
* 94.	<i>N.</i> sp.	ヤミイロオニグモの一種	-	F	-	-
95.	<i>Zilla sachalinensis</i>	カラフトオニグモ	fmy	Fy	y	-
96.	<i>Z. astridae</i>	サガオニグモ	Ff	-	y	-
97.	<i>Cyrtarachne inaequalis</i>	オオトリノフンダマシ	-	y	e	-
98.	<i>C. bufo</i>	トリノフンダマシ	y	y	-	-
99.	<i>C. yunoharuensis</i>	アカイロトリノフンダマシ	-	fy	-	-
100.	<i>Argiope amoena</i>	コガネグモ	y	-	-	-
101.	<i>A. boesenbergi</i>	チュウガタコガネグモ	-	F	y	-
102.	<i>A. minuta</i>	コガタコガネグモ	-	y	F	-
103.	<i>A. bruennichi</i>	ナガコガネグモ	y	fy	-	-
104.	<i>Acusilas coccineus</i>	ハツリグモ	Fy	F	-	-

			5月	7月	10月	2月
*105.	<i>Poltys illepidus</i>	ゲボウグモ	—	—	y	y
106.	<i>Cyclosa octotuberculata</i>	ゴミグモ	F	F	y	—
107.	<i>C. sedeculata</i>	ヨツテゴミグモ	FMfm	Fy	my	m
108.	<i>C. argenteoalba</i>	ギンメッキゴミグモ	Ff	Fm	—	—
109.	<i>Chorizopes nipponicus</i>	ヤマトカナエグモ	Mf	M	—	—
110.	<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ	—	fy	FM	—
111.	<i>Meta reticuloides</i>	ヤマジドヨウグモ	—	y	F	—
*112.	<i>Metleucauge kompirensis</i>	タニマノドヨウグモ	—	F	—	—
113.	<i>M. yunohamensis</i>	メガネドヨウグモ	Mf	F	y	y
*114.	Araneidae gen. sp.	コガネグモ科の一種	FM	—	—	—
Tetragnathidae アシナガグモ科						
115.	<i>Leucauge magnifica</i>	オオシロカネグモ	F	FM	—	—
116.	<i>L. subblanda</i>	コシロカネグモ	y	FM	y	—
117.	<i>L. subgemmea</i>	キララシロカネグモ	—	FM	—	—
118.	<i>Menosira ornata</i>	キンヨウグモ	—	y	F	—
*119.	<i>Tetragnatha shinanoensis</i>	シナノアシナガグモ	F	y	—	—
120.	<i>T. squamata</i>	ウロコアシナガグモ	mf	—	—	y
*121.	<i>T. yesoensis</i>	エゾアシナガグモ	y	—	—	—
Agelenidae タナグモ科						
122.	<i>Agelena limbata</i>	クサグモ	y	FMy	e	e
123.	<i>A. opulenta</i>	コクサグモ	y	y	Fy	—
124.	<i>Cybaeus nipponicus</i>	カチドキナミハグモ	—	—	My	—
*125.	<i>C. sp.</i>	ナミハグモの一種	—	—	—	FM
126.	<i>Coelotes exitialis</i>	ヤチグモ	—	—	F	—
*127.	<i>C. luctuosus</i>	メガネヤチグモ	—	y	F	—
128.	<i>C. corasides</i>	ヤマヤチグモ	y	fy	FMmy	—
129.	<i>C. antri</i>	ホラズミヤチグモ	F	—	—	—
*130.	<i>C. musashiensis</i>	ムサシヤチグモ	—	—	F	—
*131.	<i>C. sp.</i>	ヤチグモの一種	—	—	—	M
*132.	Agelenidae gen. sp.	タナグモ科の一種	—	—	—	FM
Hahniidae ハタケグモ科						
*133.	<i>Neoantistea quelpartensis</i>	ヤマハタケグモ	Fy	—	F	—
Oxyopidae ササグモ科						
134.	<i>Oxyopes sertatus</i>	ササグモ	fm	—	y	—
Lycosidae コモリグモ科						
135.	<i>Arctosa ebicha</i>	エビチャコモリグモ	—	y	M	—

			5月	7月	10月	2月
*136.	<i>A. fujii</i>	フジイコモリグモ	F	—	fy	mfy
*137.	<i>Lycosa coelestis</i>	ハラクロコモリグモ	—	—	y	—
138.	<i>Pardosa laura</i>	ハリゲコモリグモ	f	F	—	—
*139.	<i>Pirata clercki</i>	クラークコモリグモ	Fm	F	—	—
Pisauridae キシダグモ科						
140.	<i>Dolomedes sulfureus</i>	イオウイロハシリグモ	y	My	y	—
141.	<i>D. ruptor</i>	アオグロハシリグモ	Mfy	y	y	m
142.	<i>D. saganus</i>	スジアカハシリグモ	fy	y	y	—
143.	<i>Pisaura lama</i>	アズマキシダグモ	M	—	y	f
Clubionidae フクログモ科						
144.	<i>Chiracanthium japonicum</i>	カバキコマチグモ	y	—	y	—
*145.	<i>C. unicum</i>	ヤサコマチグモ	—	y	—	—
*146.	<i>Clubiona lena</i>	トビイロフクログモ	—	F	f	—
147.	<i>C. jucunda</i>	ヤハズフクログモ	y	—	—	—
148.	<i>C. vigil</i>	ムナアカフクログモ	—	—	—	y
*149.	<i>C. japonica</i>	ヤマトフクログモ	—	—	—	y
*150.	<i>C. rostrata</i>	マイコフクログモ	Fy	—	—	—
*151.	<i>C. zilla</i>	ウコンフクログモ	—	—	F	—
*152.	<i>C. yaginumai</i>	ヤギヌマフクログモ	f	—	—	—
*153.	<i>C. sp.</i>	フクログモの一種	FM	—	—	—
154.	<i>Trachelas japonica</i>	ネコグモ	FMf	—	y	fy
*155.	<i>Orthobula crucifera</i>	オトヒメグモ	M	—	—	—
156.	<i>Phrurolithus nipponicus</i>	ウラシマグモ	FM	F	—	f
*157.	<i>P. komurai</i>	コムラウラシマグモ	—	—	FM	y
*158.	<i>P. sp.</i>	ウラシマグモの一種	FM	F	y	y
159.	<i>Itatsina praticola</i>	イタチグモ	fmy	—	—	—
Anyphaenidae イヅツグモ科						
160.	<i>Anyphaena pugil</i>	イヅツグモ	Fy	F	—	—
Gnaphosidae ワシグモ科						
*161.	<i>Gnaphosa kompirensis</i>	メキリグモ	F	—	—	—
*162.	<i>G. silvicola</i>	モリメキリグモ	M	—	—	—
163.	<i>Zelotes pallidipatellis</i>	マエトビケムリグモ	—	—	—	y
*164.	<i>Drassyllus sanmenensis</i>	エビチャヨリメケムリグモ	M	—	—	—
Ctenidae シボグモ科						
165.	<i>Anahita fauna</i>	シボグモ	FMfm	—	—	y
Heteropodidae アシダカグモ科						

			5月	7月	10月	2月
166.	<i>Heteropoda forcipata</i>	コアシダカグモ	Fy	y	M	-
	Thomisidae カニグモ科					
167.	<i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ	FMfm	F	-	-
168.	<i>X. saganus</i>	オオヤミイロカニグモ	-	-	y	-
169.	<i>Bassani ana decorata</i>	キハダカニグモ	-	y	-	y
170.	<i>Misumenops tricuspidatus</i>	ハナグモ	-	-	Fy	-
171.	<i>M. japonicus</i>	コハナグモ	Ffm	FM	-	my
*172.	<i>M. kumadai</i>	クマダハナグモ	-	-	m	-
173.	<i>Pistius undulatus</i>	ガザミグモ	f	-	-	-
174.	<i>Oxytate striatipes</i>	ワカバグモ	my	mfy	y	-
175.	<i>Tmarus piger</i>	トラフカニグモ	FMf	F	y	y
176.	<i>T. rimosus</i>	セマルトラフカニグモ	fy	F	y	y
177.	<i>Lysiteles coronatus</i>	アマギエビスクモ	Ff	F	y	y
	Philodromidae エビグモ科					
*178.	<i>Thanatus miniaceus</i>	ヤドカリグモ	-	-	f	-
179.	<i>Tibellus tenellus</i>	シャコグモ	Fmy	F	y	y
*180.	<i>Philodromus auricomus</i>	キンイロエビグモ	y	-	-	-
181.	<i>P. subaureolus</i>	アサヒエビグモ	fy	-	y	y
182.	<i>P. spinitarsis</i>	キハダエビグモ	Mf	-	y	fy
	Salticidae ハエトリグモ科					
183.	<i>Yaginumaella ususudi</i>	ウススジハエトリ	Ffmy	FMf	F	y
184.	<i>Yaginumanis sexdentatus</i>	ムツバハエトリ	FMfy	-	y	-
185.	<i>Evarcha albaria</i>	マミジロハエトリ	y	-	y	-
186.	<i>Plexippoides annulipedis</i>	マダラスジハエトリ	m	-	-	-
187.	<i>P. doenitzi</i>	デーニツツハエトリ	Fy	y	-	-
*188.	<i>Marpissa pulla</i>	ヨダンハエトリ	FMy	M	-	-
*189.	<i>Phintella abnornis</i>	チャイロアサヒハエトリ	-	FM	-	y
*190.	<i>P. bifurcilinea</i>	キアシハエトリ	m	-	-	-
191.	<i>Silerella vittata</i>	アオオビハエトリ	f	-	-	-
*192.	<i>Harmochirus pullus</i>	キレワハエトリ	y	-	-	-
193.	<i>Rhene atrata</i>	カラスハエトリ	Fy	-	y	-
194.	<i>Laufelia aenea</i>	エキスハエトリ	F	Mf	-	y
*195.	<i>Helicius cylindrata</i>	コジャバラハエトリ	F	-	-	-
*196.	<i>Neon reticulatus</i>	ネオンハエトリ	y	-	-	-
197.	<i>Myrmarachne japonica</i>	アリグモ	-	M	fy	y
198.	<i>M. innermichetis</i>	ヤサアリグモ	fmy	F	y	-

		5月	7月	10月	2月
*199. <i>M. formicaria</i>	タイリクアリグモ	—	F	—	—
	合計	140	104	96	74

以上のように今回の調査では合計 32 科 199 種のクモが確認された。1977 年度に行われた前回の調査の際に確認されなかった種類については、番号の横に * 印をつけて示した。また、前回確認されて今回は未確認だった種類については別表 1 に記した。このうち、ウツキコモリグモ、ビジョオニグモ、ネコハエトリなどのクモは単純な見落としと思われるが、ドウシグモなどについては現在はすでに分布していないかも知れない。12年前と現在の種類数を比較するかぎりほぼそのままの状態で推移してきたと言えよう。

この結果、八王子城跡のクモは前回と今回の調査で合計 233 種類が確認されたことになる。

本稿をまとめるにあたり、新海栄一氏には校閲をお願いした。ここにお礼申し上げる。

引 用 文 献

新海栄一・田中理恵・栗原輝代子・高橋登, 1978. 八王子城跡のクモ (I). *Kishi dai a* (43) : 15-23.

別表1. 前回(1977)確認されて今回(1989)未確認だった種類の一覧(新海他, 1978より抜粋)

1. <i>Theridion takayense</i>	タカユヒメグモ
2. <i>Doenitzius parvus</i>	コデニツツサラグモ
3. <i>Prolinyphia limbatinella</i>	フタスジサラグモ
4. <i>Strandella quadrimaculata</i>	ヨツボシサラグモ
5. <i>Oia imadatei</i>	イマダテテングヌカグモ
6. <i>Araneus i shisawai</i>	イシサワオニグモ
7. <i>A. mitificus</i>	ビジョオニグモ
8. <i>A. variegatus</i>	ニシキオニグモ
9. <i>Hypsosinga sanguinea</i>	シロスジショウジョウグモ
10. <i>Cyclosa atrata</i>	カラスゴミグモ
11. <i>C. japonica</i>	ヤマトゴミグモ
12. <i>C. monticola</i>	ヤマゴミグモ
13. <i>Cyrtarachne nagasakiensis</i>	シロオビトリノフンダマシ
14. <i>Tetragnatha praedonia</i>	アシナガグモ
15. <i>Doosia japonica</i>	ドウシグモ
16. <i>Cicurina japonica</i>	コタナグモ
17. <i>Coelotes kitazawai</i>	アズマヤチグモ
18. <i>Cybaeus kiuchi</i>	キウチナミハグモ
19. <i>C. shinkaii</i>	シンカイナミハグモ
20. <i>Hahnia corticicola</i>	ハタケグモ
21. <i>Antisteia</i> sp.	クサチハタグモの一種
22. <i>Pardosa brevivulva</i>	ヤマハリゲコモリグモ
23. <i>P. astrigera</i>	ウヅキコモリグモ
24. <i>Pirata subpiraticus</i>	キバラコモリグモ
25. <i>P. exiguum</i>	コガタコモリグモ
26. <i>Thanatus nipponicus</i>	ヤマトヤドカリグモ
27. <i>Carrhotus xanthogramma</i>	ネコハエトリ
28. <i>Harmochirus brachiatus</i>	ウデブトハエトリ
29. <i>Jotus difficilis</i>	マガネアサヒハエトリ
30. <i>Synagelides agoriformis</i>	アメイロハエトリ
31. <i>Chiracanthium eutittha</i>	アシナガコマチグモ
32. <i>Clubiona japonicola</i>	ハマキフクログモ
33. <i>Phrurolithus pennatus</i>	ヤバネウラシマグモ
34. <i>Gnaphosidae</i> gen. sp.	ワシグモ科の一種

編集後記

本号は採集記録が多くなりました。できればもっともっといろいろな内容のものを掲載したいと思っています。皆さんからのたくさんの御投稿をお待ちしております。特にドラッグラインのコーナーをどんどん大きくしたいと願っております。どんなことでも結構です。野外へ出て、あるいはいながらにしてでも、クモについて感じたこと見たことをざっと書いてお送りください。ドラッグラインで一冊のキシダイアができるなんて素晴らしいじゃありませんか。今日あなたが目にしたこと、自分だけの頭のなかにしまいこんでしまわないので皆さんに紹介しましょう。どんなにささいなことだって、クモに関することならきっとたくさんの人にとって興味深いにちがいありません。

<1990年・1991年度運営委員>

池田 博明・板倉 泰弘・稻葉 茂代・小野 展嗣・熊田 憲一・笹岡 文雄・新海 明・
高橋 登・谷川 明男・萩本 房枝。

代表：萱嶋 泉 191 東京都日野市多摩平7-15-9

本部：小野 展嗣 169 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部内

会誌編集：谷川 明男 223 神奈川県横浜市港北区新吉田町1523

通信編集：池田 博明 258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099

事務局（会計）：熊田 憲一 221 神奈川県横浜市神奈川区片倉町199

郵便振替 東京 7-74885

会計監査：加藤輝代子・松浦 祐司

KISHIDAIA No. 61

1991年1月15日印刷

編集者 谷川 明男

1991年1月16日発行

発行者 萩嶋 泉

発行所 東京蜘蛛談話会

東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館動物研究部 小野 展嗣方

印刷所 イチカワ印刷所

〒357 埼玉県飯能市新町24-7

KISHIDAIA

Bulletin of Tokyo Spider Study Group

No. 61 Jan. 1991

目次

池田 博明：コガネヒメグモのオ久間闘争	1
DRAG-LINE	
小野 晃嗣：千葉県で採れたサソリモドキ	4
池田 博明：ムネクロサラクモの求愛・交尾	4
山川 守：ガス瞬間沸かし器の不完全燃焼を引き起さずクモの糸	5
谷川 明男：斑紋のあるフキグロサソマシダマン	5
谷川 明男：ヤリグモ類オナガクモ	6
熊田 審一：キタダラヒラタヒダクモの新産地	6
新海 明：ツクネグモの交接の觀察	6
新海 明：カネコトタテグモとキシノウエトタテグモの混生地	7
谷川 明男：常念岳の山麓でヨケオニクモを発見	7
田畠 幸子：緑のオニクモ？発見：丹沢湖で	8
谷川 明男：渡瀬線を越えたオオジョヨウクモの幼体	8
新海 明：動物学雑誌に掲載された真正クモ類の文献目録	9
熊田 審一・谷川 明男：福島県南部のクモ類採集記録	13
山川 守・熊田 審一：丹沢のクモ 2. 飯山観音周辺	19
谷川 明男：屋久島のクモ類採集記録	27
1989年度調査採集会報告	
新海 明：八王子城跡のクモ	33
編集後記	43